

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年5月30日

【計算期間】 第1特定期間（自 平成23年11月22日 至 平成24年3月15日）

【ファンド名】 T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース
 T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドルブル・コース
 T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドルベア・コース
 T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロブル・コース
 T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロベア・コース
 T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）リアルブル・コース
 T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）豪ドルブル・コース

本書において、ファンドの名称を略称で記載する場合があります。

ファンドの名称	略称
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース	円ヘッジ・コース
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドルブル・コース	米ドルブル・コース
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドルベア・コース	米ドルベア・コース
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロブル・コース	ユーロブル・コース
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロベア・コース	ユーロベア・コース
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）リアルブル・コース	リアルブル・コース
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）豪ドルブル・コース	豪ドルブル・コース

・以上を総称して「T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）」ということがあります。

・以上を総称して、または個別に「当ファンド」または「各ファンド」ということがあります。

・米ドルブル・コース、ユーロブル・コース、リアルブル・コース、豪ドルブル・コースを総称して「ブル・コース」、米ドルベア・コース、ユーロベア・コースを総称して「ベア・コース」ということがあります。

【発行者名】 T & Dアセットマネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤瀬 宏

【本店の所在の場所】 東京都港区海岸一丁目2番3号

【事務連絡者氏名】 岩松 覚

【連絡場所】 東京都港区海岸一丁目2番3号

【電話番号】 03-3434-6630

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

当ファンドは、安定的なインカム収益の獲得と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。

ファンドの基本的性格

当ファンドの商品分類および属性区分は以下の通りです。

当ファンドが該当する商品分類および属性区分を網掛け表示しています。

< 商品分類表 >

円ヘッジ・コース、米ドルブル・コース、ユーロブル・コース、リアルブル・コース、
豪ドルブル・コース

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単位型投信	国内	株式 債券 不動産投信 その他資産 資産複合
追加型投信	海外	
	内外	

米ドルペア・コース、ユーロペア・コース

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）	補足分類
単位型投信	国内	株式 債券 不動産投信 その他資産 資産複合	インデックス型
追加型投信	海外		特殊型
	内外		

< 属性区分表 >

円ヘッジ・コース

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (日本を除く) 日本 北米 欧州 アジア オセアニア 中南米 アフリカ 中近東(中東) エマージング	ファミリー ファンド	あり (フルヘッジ)
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性	年2回			
不動産投信	年4回			
その他資産 (投資信託証券(債券))	年6回 (隔月)			
資産複合	年12回 (毎月)			
	日々		ファンド・オブ・ ファンズ	なし
	その他			

米ドルブル・コース、ユーロブル・コース、リアルブル・コース、豪ドルブル・コース

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
--------	------	--------	------	-------

株式 一般 大型株 中小型株	年1回			
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性	年2回	グローバル （日本を除く）	ファミリー ファンド	あり
不動産投信	年4回	日本 北米 欧州 アジア オセアニア		
その他資産 （投資信託証券（債券））	年6回 （隔月）	中南米 アフリカ 中近東（中東） エマージング	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
資産複合	年12回 （毎月）			
	日々			
	その他			

米ドルペア・コース、ユーロペア・コース

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ	特殊型
株式 一般 大型株 中小型株	年1回				ブル・ベア型
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性	年2回	グローバル （日本を除く）	ファミリー ファンド	あり	条件付運用型
不動産投信	年4回	日本 北米 欧州 アジア オセアニア			ロング・ショート型？ 絶対収益追求型
その他資産 （投資信託証券 （債券））	年6回 （隔月）	中南米 アフリカ 中近東（中東） エマージング	ファンド・オブ・ ファンズ	なし	その他型 （通貨ペア型）
資産複合	年12回 （毎月）				
	日々				
	その他				

< 商品分類の定義 >

追加型投信 一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

海外 目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

債券 目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

特殊型 目論見書または信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

< 属性区分の定義 >

その他資産（投資信託証券（債券））

目論見書または信託約款において、投資信託証券を通じて実質的に債券に投資を行う旨の記載があるものをいいます。

年12回（毎月） 目論見書または信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。

グローバル（日本を除く） 目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除く世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

エマージング 目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

ファンド・オブ・ファンズ 「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。

為替ヘッジあり 目論見書または信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。

為替ヘッジなし 目論見書または信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替

のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

その他型（通貨ペア型）

その他型とは、目論見書または信託約款において、「ブル・ベア型」、「条件付運用型」、「ロング・ショート型／絶対収益追求型」の特殊型分類のうち、いずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。「通貨ペア型」とは、ファンドで行う為替取引において、投資対象となる通貨への逆連動を目指すものをいい、委託者（以下「委託会社」ということがあります。）が独自に定めた運用分類です。

商品分類および属性区分の定義については、社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご参照ください。

ファンドの特色



◆米ドル建ての新興国ハイイールド社債を実質的な主要投資対象とします。

- 新興国ハイイールド社債の運用は、JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドが行います。

◆当ファンドは、米ドルの円に対する為替変動リスクを低減させた「円ヘッジ・コース」に加え、相場環境に応じて機動的な投資が可能な6つの通貨コースを合わせた、合計7つのコースから構成されており、各ファンド間でのスイッチングが可能です。

- 円による為替ヘッジ^(注1)により為替変動リスクを低減させた「円ヘッジ・コース」に加えて、円安・円高のそれぞれの局面に有効な選択肢を提供できる「米ドル円グループ」「ユーロ円グループ」のほか、為替取引プレミアム^(注2)の獲得が期待できる「高金利通貨グループ」があります。

(注1)当ファンドにおける「為替ヘッジ」とは、円買い/米ドル売りを行うことで、実質的な主要投資対象である米ドル建ての新興国ハイイールド社債を円ヘッジすることをいいます。また、それに伴って発生する金利差損益のことをそれぞれ「為替ヘッジコスト」「為替ヘッジプレミアム」と呼びます。なお、為替ヘッジにより米ドルの円に対する為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるわけではありません。

(注2)当ファンドにおける「為替取引」とは、各コース(円ヘッジ・コースを除く)における為替運用をいいます。また、それに伴って発生する金利差損益のことをそれぞれ「為替取引コスト」「為替取引プレミアム」といいます。なお、高金利通貨グループ以外のコースにおいても為替取引コスト/プレミアムは発生します。

◆毎月15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

- 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

ファンドの仕組み

当ファンドは、「エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド」および「マネーアカウントマザーファンド」に投資を行うファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行います。



(注)当ファンドにおける「為替ヘッジ取引等」とは、「為替ヘッジ」および「為替取引」の両方をいいます。

ファンドの収益源となるポイント

ポイント1 新興国ハイイールド社債への投資

当ファンドは、新興国ハイイールド社債を実質的な主要投資対象とします。

■ハイイールド社債とは、格付会社(スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)、ムーディーズ・インベスターズ・サービス(Moody's)等)によりBB格相当以下の低い信用格付を付与された社債をいいます。一般的に、ハイイールド社債は、投資適格債券(BBB格相当以上)と比較して、債券の元本や利金の支払遅延や債務不履行等のリスクが高い分、金利の上乗せがあり、相対的に高い利回りが期待できます。

高い 低い
↑ ↓
信用力 利回り
↓ ↑
低い 高い

債券の信用格付と利回りについて

	S&P	Moody's
投資適格債券	AAA	Aaa
	AA	Aa
	A	A
ハイイールド債券	BBB	Baa
	BB	Ba
	B	B
	CCC	Caa
	CC	Ca
	C	C
	D	—

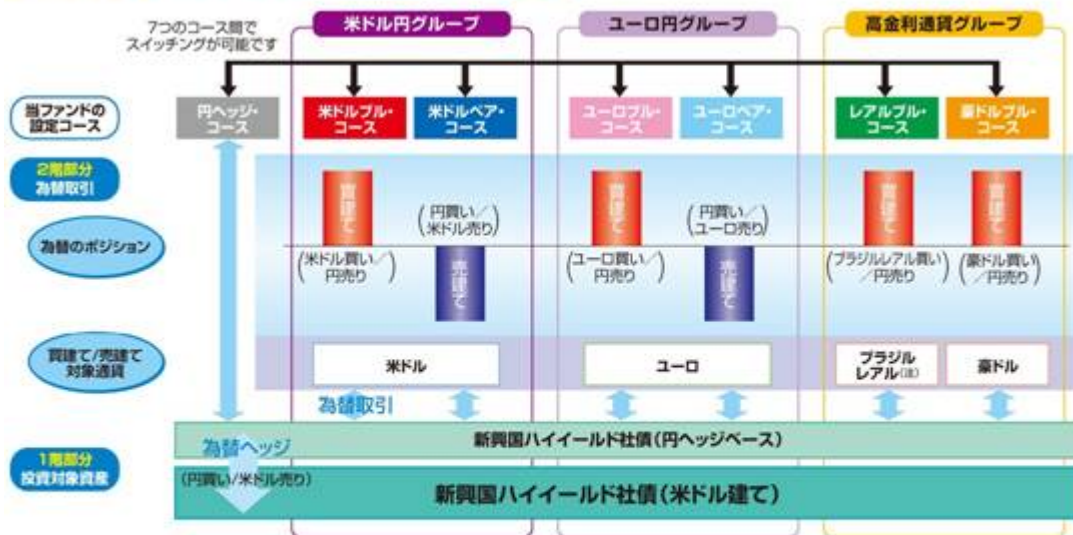
ファンドの実質的な主要投資対象である新興国ハイイールド社債の運用は、JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドが行います。

■JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドとは

JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー傘下の資産運用部門である「JPモルガン・アセット・マネジメント」グループの運用会社として、1974年にロンドンで設立されました。同社は「JPモルガン・アセット・マネジメント」グループの運用技術および調査能力を活用し、新興国債券運用に関して豊富な経験を有しています。

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

ポイント2 為替取引を活用した機動的な運用



(注)ブラジルレアルは、NDF取引で為替取引を行います。

上記は、当ファンドの構造をわかりやすく説明するためのイメージ図であり、必ずしも実際の為替ヘッジ取引等を正確に表したものではありません。為替ヘッジと為替取引は、投資効率向上の観点から、各コースにおいてひとつの取引として執行される場合や、これらを相殺して取引を行わない場合があります。

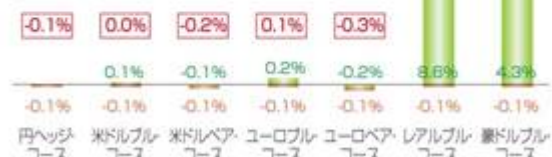
<例>「米ドルブルコース」の場合、円ヘッジ取引において[円買い/米ドル売り]、為替取引において[米ドル買い/円売り]の逆の取引が発生しますが、両者は相殺されるため、実際の取引は行いません。

為替取引コスト等と為替取引プレミアム等

- 為替ヘッジ取引等において、短期金利が低い通貨を買い、高い通貨を売る場合は、為替取引コスト等が発生します。
- 為替ヘッジ取引等において、短期金利が高い通貨を買い、低い通貨を売る場合は、為替取引プレミアム等の獲得が期待できます。

為替取引コスト／為替取引プレミアム等

- I) 為替ヘッジコスト
- II) 為替取引コスト/プレミアム
- 合計 (I+II)



(2012年4月末日現在) 出所: Bloombergより委託会社が作成

●簡便法による算出

為替取引コスト/プレミアム等

= (買建て対象通貨の短期金利) - (売建て対象通貨の短期金利)

- ・左記の為替取引コスト/プレミアム等は、簡便法による試算であり、実際の値とは異なります。
- ・左記のグラフの百分率は、表示桁数未満を四捨五入しているため、合計の数値が合わない場合があります。
- ・買建て対象通貨と売建て対象通貨の金利が逆転した場合や投資環境の変化等により、コストとプレミアムが逆転する場合があります。
- ・左記のグラフは過去のデータであり、将来の為替取引コスト/プレミアム等を示唆あるいは保証するものではありません。

各為替取引コスト/プレミアム等の算出に使用した各通貨の短期金利は、以下の通りです。
円: 米ドル、ユーロ: 豪ドル1ヵ月LIBOR
ブラジルレアル: CD(廉潔性預金証書)レート1ヵ月

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

為替の変動(為替差益と為替差損)

- ブル・コースにおいては、買建て対象通貨の対円レートが上昇(円安)の場合には為替差益を得ることができ、逆に買建て対象通貨の対円レートが下落(円高)の場合には為替差損が発生します。
- ベア・コースにおいては、売建て対象通貨の対円レートが下落(円高)の場合には為替差益を得ることができ、逆に売建て対象通貨の対円レートが上昇(円安)の場合には為替差損が発生します。

基準価額の変動要因

基準価額上昇要因 (為替差益の獲得)	ファンド名	基準価額下落要因 (為替差損の発生)
円安/対象通貨高	米ドルブルコース	対象通貨安/円高
	ユーロブルコース	
	レアルブルコース	
	豪ドルブルコース	
対象通貨安/円高	米ドルベア・コース	円安/対象通貨高
	ユーロベア・コース	
—	円ヘッジコース	—

(注)円ヘッジコースにおいては、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるわけではありません。

スイッチングについて

- 各ファンド間でスイッチングが可能です。
- 円安局面ではブル・コース、円高局面ではベア・コースに投資することで収益獲得が期待できます。
- スイッチングを活用することで、相場環境に応じた機動的な投資が可能となります。

スイッチングとは、保有しているファンドを換金した受取金額をもって、同時に他のファンドを購入することをいいます。スイッチングの際には、販売会社が定める所定の手数料等がかかります。(ただし、円ヘッジ・コースへのスイッチングには手数料はかかりません。)

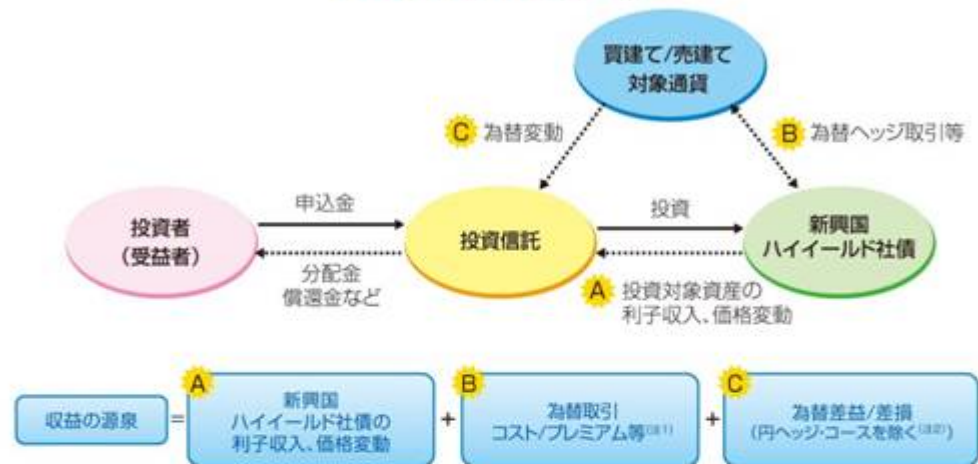
円ヘッジ・コース	ブル・コース	ベア・コース
<p>為替変動リスクを低減できます</p> <p>為替がボックス圏で推移する場合や、見通しが判然としない局面でご活用いただけます。</p>	<p>円安局面で有効です</p> <p>対象通貨買い/円売りにより、対象通貨が対円で強含む際に為替差益の獲得が期待できます。</p>	<p>円高局面で有効です</p> <p>円買い/対象通貨売りにより、対象通貨が対円で弱含む際に為替差益の獲得が期待できます。</p>

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

通貨選択型ファンドの収益のイメージ

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替ヘッジ取引等の対象となる円以外の通貨も選択することができるよう設計された投資信託です。
- 当ファンドの収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。

＜当ファンドにおけるイメージ図＞



収益を得られるケース	●投資対象資産の市況の好転(金利の低下)	●買建て対象通貨の短期金利が、売建て対象通貨の短期金利を上回る(為替取引) ●円の短期金利が米ドル(投資対象資産の通貨)の短期金利を上回る(為替ヘッジ)	ブル・コース 買建て対象通貨が対円で上昇(円安)	ベア・コース 売建て対象通貨が対円で下落(円高)
	債券価格の上昇	為替取引プレミアム等の発生	為替差益の発生	ブル・コース 買建て対象通貨が対円で下落(円高) ベア・コース 売建て対象通貨が対円で上昇(円安)
損失やコストが発生するケース	●投資対象資産の市況の悪化(金利の上昇、発行体の信用状況の悪化)	●売建て対象通貨の短期金利が、買建て対象通貨の短期金利を上回る(為替取引) ●米ドル(投資対象資産の通貨)の短期金利が円の短期金利を上回る(為替ヘッジ)	為替取引コスト等の発生	

(注1) 為替ヘッジ取引等に伴って生じる全ての金利差損益をいいます。そのため、当ファンドの収益の源泉日には、為替取引コスト/プレミアムに加え、投資対象資産に対する為替ヘッジに伴って生じた為替ヘッジコスト/プレミアムも含まれます。

(注2) 円ヘッジ・コースについては、為替ヘッジ(円買い/米ドル売り)により為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるわけではありません。

*上記はイメージであり、実際の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

分配方針

- 毎決算時(毎月15日、休業日の場合は翌営業日)に分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。

分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が決定するものとし、原則として、インカム収益を中心に分配を行うことを目指します。ただし、基準価額水準等によっては、売買益(評価益を含みます。)が中心となる場合があります。



分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。

*上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払およびその金額について示唆、保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

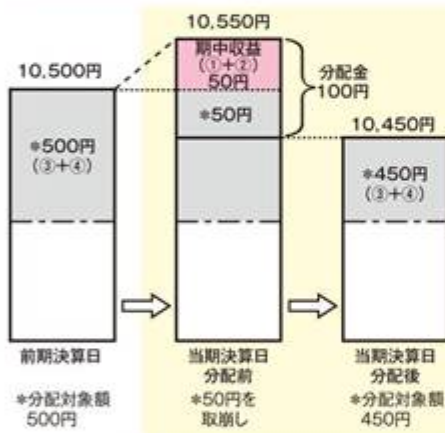
投資信託で分配金が支払われるイメージ



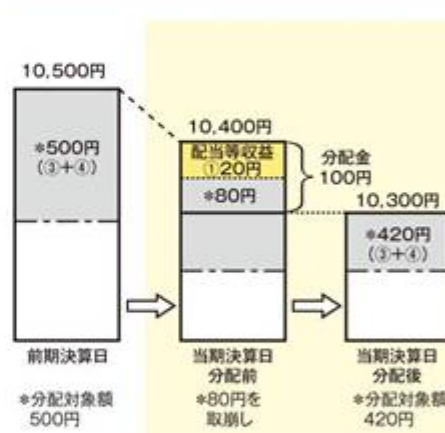
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがいさかかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

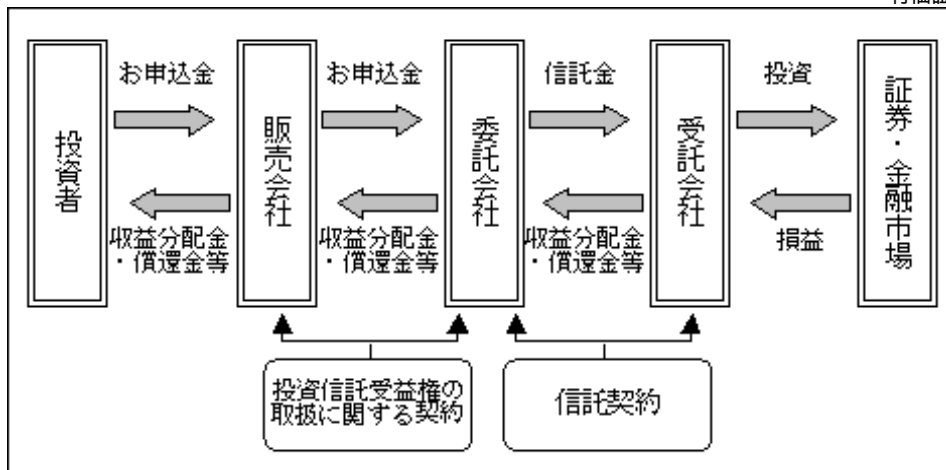
信託金の限度額は各ファンド2,000億円です。ただし、受託者（以下「受託会社」ということがあります。）と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

(2) 【ファンドの沿革】

平成23年11月22日 信託契約締結、当ファンドの設定、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

ファンド運営の仕組み図



ファンド・オブ・ファンズについて

当ファンドは、主として投資信託証券に投資を行うファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行います。詳しくは、前述の「(1) ファンドの目的及び基本的性格 ファンドの特色 ファンドの仕組み」をご参照ください。

なお、「エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド（以下「外国投資信託」ということがあります。）」における新興国ハイイールド社債の運用は、JPモルガン・アセット・マネジメント（UK）リミテッドが行います。

JPモルガン・アセット・マネジメント（UK）リミテッドとは

JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー傘下の資産運用部門である「JPモルガン・アセット・マネジメント」グループの運用会社として、1974年にロンドンで設立されました。同社は「JPモルガン・アセット・マネジメント」グループの運用技術および調査能力を活用し、新興国債券運用に関して豊富な経験を有しています。

委託会社およびファンドの関係法人の名称およびファンドの運営上の役割

（委託会社が関係法人と締結している契約等の概要を含みます。）

a. 委託会社

T & Dアセットマネジメント株式会社

委託会社は、信託約款（信託契約）の規定等に基づき主に次の業務を行います。

- (1) 信託約款の届出
- (2) 信託財産の運用指図
- (3) 信託財産の計算（毎日の基準価額の計算）
- (4) 目論見書および運用報告書の作成等

b. 受託会社

三井住友信託銀行株式会社

（再信託受託会社：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社）

受託会社は、信託約款（信託契約）の規定等に基づき主に次の業務を行います。

- (1) 信託財産の保管・管理・計算
- (2) 委託会社の指図に基づく信託財産の処分等

c. 販売会社（委託会社の指定する金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行う者および委託会社の指定する金融商品取引法第2条第11項に規定する登録金融機関をいいます。）

販売会社は、委託会社との間に締結した「投資信託受益権の取扱に関する契約」（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）等に基づき、主に次の業務を行います。

- (1) 受益権の募集・販売の取扱い
- (2) 受益権の換金（解約）申込の取扱い
- (3) 換金代金、収益分配金および償還金の支払の取扱い
- (4) 目論見書、運用報告書の交付等

委託会社の概況

a. 資本金

平成24年3月末日現在 11億円

b. 会社の沿革

昭和55年12月19日	第一投信株式会社設立
	同年12月26日「証券投資信託法」（当時）に基づく免許取得
平成9年12月1日	社名を長期信用投信株式会社に変更
平成11年2月25日	大同生命保険相互会社（現：大同生命保険株式会社）の傘下に入る
平成11年4月1日	社名を大同ライフ投信株式会社に変更
平成14年1月24日	投資顧問業者の登録
平成14年6月11日	投資一任契約に係る業務の認可
平成14年7月1日	ティ・アンド・ディ太陽大同投資顧問株式会社と合併、 ティ・アンド・ディ・アセットマネジメント株式会社に社名を変更
平成18年8月28日	社名をT & Dアセットマネジメント株式会社に変更
平成19年3月30日	株式会社T & Dホールディングスの直接子会社となる
平成19年9月30日	金融商品取引法の施行に伴い、第二種金融商品取引業、 投資助言・代理業、投資運用業の登録

c. 大株主の状況

平成24年3月末日現在

株主名	住所	所有株数	所有比率
株式会社T & Dホールディングス	東京都港区海岸一丁目2番3号	1,082,500株	100%

2【投資方針】

下記の（１）および（２）において、（ ）印となっている箇所は、それぞれ下記の通りにあてはめてご覧下さい。

ファンド名	投資対象とする外国投資信託
円ヘッジ・コース	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class A- JPY Hedged Class
米ドルブル・コース	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class B- USD Bull Class
米ドルベア・コース	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class C- USD Bear Class
ユーロブル・コース	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class D- EUR Bull Class
ユーロベア・コース	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class E- EUR Bear Class
リアルブル・コース	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class F- BRL Bull Class
豪ドルブル・コース	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class G- AUD Bull Class

（１）【投資方針】

この投資信託は、米ドル建ての新興国のハイイールド社債を実質的な主要投資対象とします。

円建ての外国投資信託（ ）および円建ての国内の証券投資信託であるマネーアカウントマザーファンド（以下「マザーファンド」ということがあります。）を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。

外国投資信託（ ）およびマザーファンドへの投資比率は、通常の場合においては、外国投資信託（ ）への投資を中心としますが、投資比率には制限を設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびに当該ファンドの資金動向を勘案のうえ決定します。

資金動向や市況動等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

（２）【投資対象】

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

a. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

- (1) 有価証券
- (2) 金銭債権
- (3) 約束手形

b. 次に掲げる特定資産以外の資産

(1) 為替手形

委託会社は、信託金を、外国投資信託（ ）およびマザーファンドならびに次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

(1) 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）

(2) コマーシャル・ペーパー

(3) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前2号の証券または証書の性質を有するもの

なお、(1)の証券を以下「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は、短期社債等への投資ならびに現先取引および債券貸借取引に限り行うことができます。

委託会社は、信託金を に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

(1) 預金

(2) 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

(3) コール・ローン

(4) 手形割引市場において売買される手形

(5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

(6) 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

（参考）

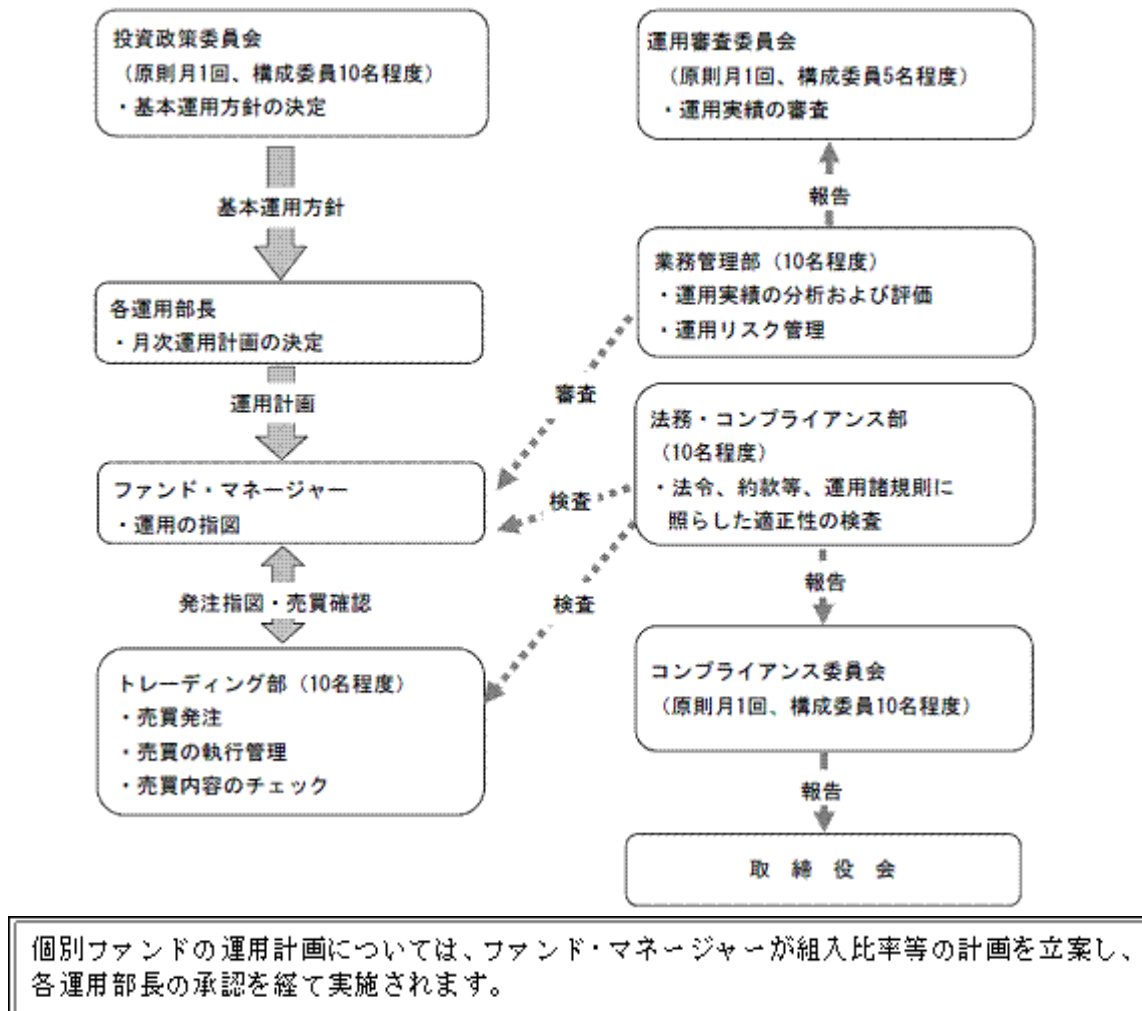
投資する投資信託証券の概要

ファンド名	エマージングマーケットハイイールドボンドファンド Emerging Market High Yield Bond Fund なお、「T&D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)」が各々投資対象とする外国投資信託は以下の通りです。	
	円ヘッジコース	Emerging Market High Yield Bond Fund Class A- JPY Hedged Class
	米ドルブルコース	Emerging Market High Yield Bond Fund Class B- USD Bull Class
	米ドルベアコース	Emerging Market High Yield Bond Fund Class C- USD Bear Class
	ユーロブルコース	Emerging Market High Yield Bond Fund Class D- EUR Bull Class
	ユーロベアコース	Emerging Market High Yield Bond Fund Class E- EUR Bear Class
	レアルブルコース	Emerging Market High Yield Bond Fund Class F- BRL Bull Class
	豪ドルブルコース	Emerging Market High Yield Bond Fund Class G- AUD Bull Class
分類	ケイマン籍/外国投資信託/円建て	
設定日	2011年11月22日	
運用基本方針	主として新興国の米ドル建てハイイールド社債に投資を行い、安定的なインカム収益の獲得と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。各クラスにおいては、外国為替予約取引、為替先物取引等*を活用します。 ※NDF取引を行う場合があります。	
投資態度	①米ドル建ての新興国ハイイールド社債を主要投資対象とします。 ・S&P、ムーディーズおよびフィッチによる信用格付(各社の信用格付が異なる場合は、最も低い信用格付)がBB格相当以下の社債および社債に準ずる債券への投資は、純資産総額の70%以上とします。 ・CCC格相当以下の信用格付の債券への投資は純資産総額の15%以下とします。 ・無格付の債券への投資は純資産総額の15%以下とします。 ・原則として、デフォルトした債券への投資は行いません。ただし、保有している債券がデフォルトした場合は、継続して保有することができるものとします。 ・同一発行体の発行する債券への投資は、純資産総額の5%以下とします。	
	②各クラスで、原則として以下の為替ヘッジ取引等を行います。	
	Class A- JPY Hedged	組入外貨建資産については、原則として円買い/米ドル売りの為替ヘッジを行います。
	Class B- USD Bull	組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジ取引等を行いません。
	Class C- USD Bear	組入外貨建資産については、原則として円買い/米ドル売りの為替ヘッジを行います。それに加えて、為替取引として、円買い/米ドル売りポジションを構築します。
	Class D- EUR Bull	組入外貨建資産については、原則としてユーロ買い/米ドル売りの為替ヘッジ取引等を行います。
	Class E- EUR Bear	組入外貨建資産については、原則として円買い/米ドル売りの為替ヘッジを行います。それに加えて、為替取引として、円買い/ユーロ売りポジションを構築します。
	Class F- BRL Bull	組入外貨建資産については、原則としてブラジルレアル買い/米ドル売りの為替ヘッジ取引等を行います。
	Class G- AUD Bull	組入外貨建資産については、原則として豪ドル買い/米ドル売りの為替ヘッジ取引等を行います。
	・米ドル建て以外の債券にも投資することがありますが、この場合には原則として当該現地通貨売り/米ドル買いのヘッジを行います。	
③運用の効率化を図るため、デリバティブ取引を利用することがあります。		
④資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。		
分配方針	原則として、毎月分配を行います。	
信託報酬等	純資産総額の年0.63%程度	
投資顧問会社	JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド	
ファンド名	マネーアカウントマザーファンド	
分類	親投資信託	
設定日	2010年2月26日	
運用基本方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。	
主な投資対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。	
主な投資制限	①株式への投資は行いません。 ②外貨建資産への投資は行いません。	
分配方針	分配は行いません。	
決算日	6月、12月の各10日(休業日の場合は翌営業日)	
信託報酬等	信託報酬、申込手数料、信託財産留保額はありません。	
委託会社	T&Dアセットマネジメント株式会社	

各概要は、2012年3月末日現在のものであり、今後変更になる場合があります。

(3)【運用体制】

委託会社の運用体制は以下の通りです。



受託会社に対しては、日々の純資産照合等を行っています。また、内部統制の有効性に関する報告書を定期的に受け取っています。

委託会社の運用体制等は平成24年3月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき収益の分配を行います。

分配対象額は、経費控除後の配当等収益および売買益等の全額とします。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定するものとします。

原則として、配当等収益を中心に分配を行うことを目指します。ただし、基準価額水準等によっては売買益（評価益を含みます。）が中心となる場合があります。また、必ず分配を行うものではありません。

収益分配に充てず、信託財産に留保した利益については、運用の基本方針にしたがって運用を行います。

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

配当等収益とは、配当金、利子およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額で、諸経費、信託報酬（税込）を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。

売買益とは、売買損益に評価損益を加減して得た利益金額で、諸経費、信託報酬（税込）を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補った後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

毎決算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

(5) 【投資制限】

投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への直接投資は行いません。

有価証券先物取引等の派生商品取引の指図は行いません。

株式への直接投資は行いません。

同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、信託財産において換金代金の支払資金の手当て（換金申込に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金の借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 換金申込に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への換金代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または解約代金の入金日までの間もしくは償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- c. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- d. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

（参考）マネーアカウントマザーファンドの概要

（1）投資方針

主としてわが国の国債、公社債および短期金融商品を投資対象とし、安定した収益の確保を目標として運用を行います。

有価証券先物取引等は、信託約款の範囲内で行います。

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

（2）投資対象

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- a. 次に掲げる特定資産
 - (1)有価証券
 - (2)デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第17条に定めるものに限り、）
 - (3)金銭債権
 - (4)約束手形
- b. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - (1)為替手形委託会社は、信託金を、主として次の有価証券（本邦通貨表示のものに限り、金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。
 - (1)国債証券
 - (2)地方債証券
 - (3)特別の法律により法人の発行する債券
 - (4)社債券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）
 - (5)資産の流動化に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
 - (6)投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
 - (7)コマーシャル・ペーパー
 - (8)外国または外国の者の発行する証券で、前各号の証券の性質を有するもの
 - (9)外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
 - (10)外国法人が発行する譲渡性預金証書
 - (11)貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

なお、(1)から(6)までの証券および(8)の証券のうち(1)から(6)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

委託会社は、信託金を、 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定

により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することの指図ができます。

- (1)預金
- (2)指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- (3)コール・ローン
- (4)手形割引市場において売買される手形
- (5)貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- (6)外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

(3) 投資制限

株式への投資は行いません。

外貨建資産への投資は行いません。

- a. 委託会社は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所等における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに外国の金融商品取引所等におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めて取り扱うものとします（以下同じ。）。
- b. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所等における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所等におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。
 - a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する公社債を(1)の範囲で貸付けることの指図をすることができます。
 - (1)公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
 - b. aに定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
 - c. 委託会社は、有価証券の貸付けにあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

3【投資リスク】

(1) 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による利益および損失は全て投資者に帰属します。

したがって、当ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

債券価格変動リスク

債券（公社債）は、市場金利や信用度の変動により価格が変動します。一般に市場金利が上昇した場合や発行体の信用度が低下した場合には債券の価格は下落し、基準価額が値下がりする要因となります。

信用リスク

ファンドが実質的に投資を行う新興国の社債等の信用格付の低い債券については、信用格付の高い債券に比べ価格が大きく下落する可能性や組入債券の元利金の支払遅延および支払不履行等が生じるリスクが高いと想定されます。

カントリーリスク

ファンドが実質的に投資を行う新興国の社債等については、投資対象国の金融商品取引所や証券市場、会計基準および法制度等が、先進国と異なることがあります。また、政治経済情勢、通貨規制、資本規制等の要因による影響を受けて損失を被る可能性があります。

為替変動リスク

・円ヘッジ・コース

投資対象である外国投資信託の組入資産（米ドル建て）について、原則として円買い/米ドル売りの為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、完全にヘッジすることは出来ませんので、円に対する米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。

・米ドルブル・コース

投資対象である外国投資信託の組入資産（米ドル建て）について、原則として為替ヘッジ取引等を行いませんので、円に対する米ドルの為替変動の影響を受けます。

・ユーロブル・コース、リアルブル・コース、豪ドルブル・コース

投資対象である外国投資信託の組入資産（米ドル建て）について、原則として各対象通貨買い/米ドル売りの為替ヘッジ取引等を行いますので、円に対する各対象通貨の為替変動の影響を受けます。ただし、完全にヘッジすることは出来ませんので、米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。

・米ドルベア・コース、ユーロベア・コース

投資対象である外国投資信託の組入資産（米ドル建て）について、原則として円買い/米ドル売りの為替ヘッジを行います。ただし、完全にヘッジすることは出来ませんので、米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。それに加えて、円買い/各対象通貨売りの為替取引を行いますので、円に対する各対象通貨の為替変動の影響を受けます。

米ドルブル・コース以外の各コースで行う為替ヘッジ取引等において、短期金利が低い通貨を買い、高い通貨を売る場合は、その金利差相当分の為替ヘッジコストおよび為替取引コストがかかることにご留意ください、流動性リスク

市場規模や取引量が小さい場合や、市場の混乱、取引規制等のために、取引が行えない場合、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされる可能性があります。

基準価額の変動要因（リスク）は、上記に限定されるものではありません。

（２）その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

為替ヘッジに関する留意点

当ファンドにおける為替ヘッジ取引等では、一部の新興国通貨について、直物為替先渡取引（NDF取引）を活用します。NDF取引を用いた為替ヘッジ取引等では、通常の為替予約取引と比べ、為替市場、金利市場の影響により、NDFの取引価格から想定される金利（NDF想定金利）が、取引時点における当該通貨の短期金利水準から、大きく乖離する場合があります。その場合、為替取引プレミアム等の減少や為替取引コスト等の発生により、ファンドのパフォーマンスに影響を与える場合があります。

NDF（ノン・デリバラブル・フォワード）取引とは

- ・投資対象通貨を用いた受渡を行わず、主に米ドル等による差金決済のみを行う取引をいいます。
- ・新興国通貨等への取引ニーズの高まりと共に、NDF取引が活用されるようになりました。

有価証券への投資等ファンドにかかる取引にあたっては、取引の相手先の倒産等により契約が不履行になる可能性があります。

ファンドは、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

（３）リスクの管理体制

委託会社では、運用部門は定められた運用プロセスを通じて投資リスクを管理します。

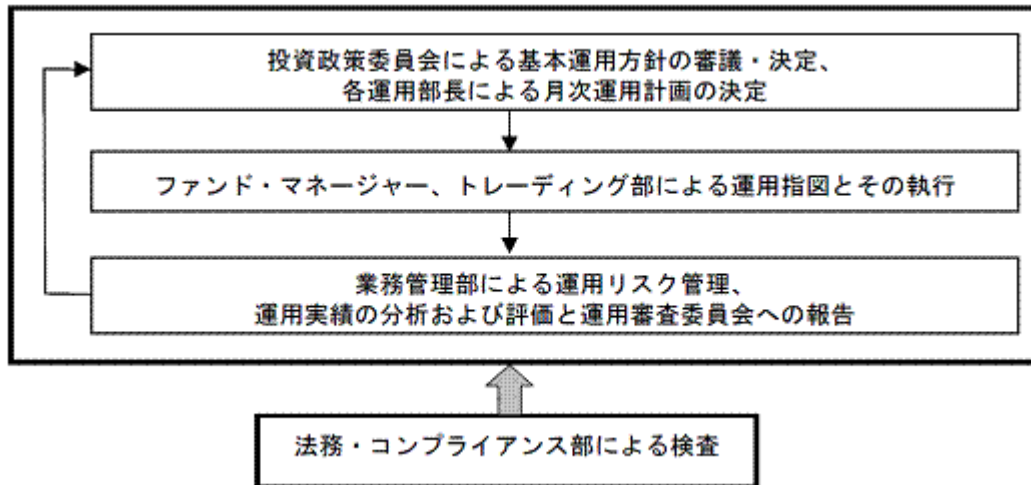
また、運用部門から独立した部門がファンドのパフォーマンス評価・分析および法令・運用諸規則等に照らした適正性の審査等の結果について、各種委員会等に報告を行い、必要に応じて適切な措置を講じる体制となっております。

委託会社のリスクの管理体制は、以下の通りです。

委託会社は、社内規定において投資リスクに関する取扱い基準およびその管理体制についても定めており、下記の運用体制のサイクル自体が、投資リスクの管理体制を兼ねたものとなっております。

- ・ファンド・マネージャーは定期的に、投資環境および市況見通し、ポートフォリオの状況および運用成果等をモニタリングして運用リスクの管理を行いつつ、原則として月次にて（投資環境および市況の著しい変化等に対応する場合には随時）運用計画の見直しを行い、各運用部長による承認を経て、実際の運用指図を行い、トレーディング部がその執行を行っています。

- ・業務管理部は、運用リスク管理を所管するとともに、ファンドのパフォーマンス評価・分析等ファンドの運用に関する審査を月次にて行い、運用審査委員会に報告を行うことにより、運用成績の改善のサポートを行っています。
- ・法務・コンプライアンス部は、法令、約款等、運用諸規則に照らした適正性の検査を行い、コンプライアンス委員会および取締役会に報告を行っています。



リスクの管理体制は平成24年3月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

3.15%（税抜3.0%）以内で販売会社が個別に定める率を、発行価格に乗じて得た額とします。なお、収益分配金を再投資する場合は無手数料とします。

申込手数料につきましては、販売会社にお問い合わせください。

(2)【換金（解約）手数料】

換金手数料はありません。

(3)【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.344%（税抜1.28%）を乗じて得た額とします。信託報酬の配分については、以下の通りとします。

委託会社	年0.4725%（税抜0.45%）
販売会社	年0.84%（税抜0.8%）
受託会社	年0.0315%（税抜0.03%）

上記の信託報酬の総額は、毎計算期末および信託終了のとき信託財産中から支弁します。

その他、投資対象とするエマージングマーケット・ハイイールドボンドファンドの信託報酬等として、各エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンドの純資産総額の年0.63%程度を信託財産中から支弁します。したがって、実質的な信託報酬等の水準は、信託財産の純資産総額の年1.974%程度（税抜1.91%程度）となります。

(4)【その他の手数料等】

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、当ファンドの信託財産中から支弁します。

信託財産の財務諸表にかかる監査費用（税込）は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年0.0084%（税抜0.008%）の率を乗じて得た額とし、信託報酬支弁のとき信託財産中から支弁します。

当ファンドの証券取引に伴う手数料等は、信託財産が負担します。

上記、のその他の手数料等については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示す

ことができません。

上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

マザーファンドには、信託報酬および監査費用はありません。

（５）【課税上の取扱い】

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取扱われます。

個人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金は、配当所得として、以下の税率により源泉徴収が行われます。確定申告は不要ですが、確定申告を行い、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。

換金時および償還時の差益（譲渡益）については、譲渡所得として、以下の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）を利用した場合は、原則として確定申告は不要です。

なお、換金時および償還時の損益については、確定申告により、上場株式等の譲渡損益および申告分離課税を選択した上場株式等の配当所得との損益通算が可能です。

期間	税率
平成24年12月31日まで	10%（所得税7%および地方税3%）
平成25年1月1日から平成25年12月31日まで	10.147%（所得税7.147%および地方税3%）
平成26年1月1日以降	20.315%（所得税15.315%および地方税5%）

上記の税率および所得税の税率には、平成25年1月1日から平成49年12月31日までの期間に加算される復興特別所得税を含んでおります。

法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額については、以下の税率により源泉徴収が行われます（地方税の源泉徴収はありません。）。

なお、益金不算入制度の適用はありません。

期間	税率
平成24年12月31日まで	7%（所得税7%）
平成25年1月1日から平成25年12月31日まで	7.147%（所得税7.147%）
平成26年1月1日以降	15.315%（所得税15.315%）

上記の税率および所得税の税率には、平成25年1月1日から平成49年12月31日までの期間に加算される復興特別所得税を含んでおります。

個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の個別元本にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回購入した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で購入する場合については販売会社毎に、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを購入する場合は当該支店毎に、一般コースと自動継続投資コースの両コースで購入する場合にはコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金とな

ります。

税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

税金の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

（１）【投資状況】

以下は、平成24年3月30日現在の状況です。

資産の種類別、地域別の投資状況

円ヘッジ・コース

資産の種類	国/地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン諸島	14,373	95.28
親投資信託受益証券	日本	455	3.02
コール・ローン、その他の資産 （負債差引後）	日本	256	1.70
合計（純資産総額）	-	15,084	100.00

米ドルブル・コース

資産の種類	国/地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン諸島	1,157	92.61
親投資信託受益証券	日本	22	1.77
コール・ローン、その他の資産 （負債差引後）	日本	71	5.62
合計（純資産総額）	-	1,250	100.00

米ドルペア・コース

資産の種類	国/地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン諸島	1,021	94.58
親投資信託受益証券	日本	35	3.24
コール・ローン、その他の資産 （負債差引後）	日本	23	2.18
合計（純資産総額）	-	1,079	100.00

ユーロブル・コース

資産の種類	国/地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン諸島	69	92.76
親投資信託受益証券	日本	3	3.48
コール・ローン、その他の資産 （負債差引後）	日本	3	3.76
合計（純資産総額）	-	75	100.00

ユーロペア・コース

資産の種類	国/地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン諸島	2,353	94.37
親投資信託受益証券	日本	63	2.53
コール・ローン、その他の資産 （負債差引後）	日本	77	3.10
合計（純資産総額）	-	2,493	100.00

レアルブル・コース

資産の種類	国/地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン諸島	2,780	94.14
親投資信託受益証券	日本	104	3.52
コール・ローン、その他の資産 （負債差引後）	日本	69	2.34
合計（純資産総額）	-	2,953	100.00

豪ドルブル・コース

資産の種類	国/地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン諸島	2,225	94.57
親投資信託受益証券	日本	81	3.43
コール・ローン、その他の資産 （負債差引後）	日本	46	2.00
合計（純資産総額）	-	2,352	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出してあります。）

（２）【投資資産】

以下は、平成24年3月30日現在の状況です。

【投資有価証券の主要銘柄】

a. 評価額上位銘柄（全銘柄）

円ヘッジ・コース

	国/地域	種類	銘柄名	券面総額	簿価単価（円） 簿価金額（円）	時価単価（円） 時価金額（円）	投資比率（％）
1	ケイマン諸島	投資信託受益証券	エマージングマーケット・ハイールドボンドファンド Class A- JPY Hedged Class	136,399,086.633	106.210 14,486,946,991	105.375 14,373,053,753	95.28
2	日本	親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	453,978,237	1.0019 454,840,795	1.0019 454,840,795	3.02

米ドルブル・コース

	国/地域	種類	銘柄名	券面総額	簿価単価（円） 簿価金額（円）	時価単価（円） 時価金額（円）	投資比率（％）
1	ケイマン諸島	投資信託受益証券	エマージングマーケット・ハイールドボンドファンド Class B- USD Bull Class	10,250,640.475	115.030 1,179,131,173	112.910 1,157,399,816	92.61
2	日本	親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	22,100,435	1.0019 22,142,425	1.0019 22,142,425	1.77

米ドルペア・コース

	国/地域	種類	銘柄名	券面総額	簿価単価（円） 簿価金額（円）	時価単価（円） 時価金額（円）	投資比率（％）
--	------	----	-----	------	--------------------	--------------------	---------

1	ケイマン諸島	投資信託受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class C- USD Bear Class	10,403,548.503	97.330 1,012,577,375	98.139 1,020,993,846	94.58
2	日本	親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	34,912,644	1.0019 34,978,978	1.0019 34,978,978	3.24

ユーロブル・コース

	国/地域	種類	銘柄名	券面総額	簿価単価(円) 簿価金額(円)	時価単価(円) 時価金額(円)	投資比率(%)
1	ケイマン諸島	投資信託受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class D- EUR Bull Class	625,085.504	111.220 69,527,260	110.821 69,272,600	92.76
2	日本	親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	2,595,588	1.0019 2,600,519	1.0019 2,600,519	3.48

ユーロベア・コース

	国/地域	種類	銘柄名	券面総額	簿価単価(円) 簿価金額(円)	時価単価(円) 時価金額(円)	投資比率(%)
1	ケイマン諸島	投資信託受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class E- EUR Bear Class	23,784,380.965	100.290 2,385,335,566	98.925 2,352,869,886	94.37
2	日本	親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	63,077,768	1.0019 63,197,615	1.0019 63,197,615	2.53

リアルブル・コース

	国/地域	種類	銘柄名	券面総額	簿価単価(円) 簿価金額(円)	時価単価(円) 時価金額(円)	投資比率(%)
1	ケイマン諸島	投資信託受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class F- BRL Bull Class	24,145,851.853	118.860 2,869,975,951	115.129 2,779,887,777	94.14
2	日本	親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	103,735,626	1.0019 103,932,723	1.0019 103,932,723	3.52

豪ドルブル・コース

	国/地域	種類	銘柄名	券面総額	簿価単価(円) 簿価金額(円)	時価単価(円) 時価金額(円)	投資比率(%)
1	ケイマン諸島	投資信託受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class G- AUD Bull Class	18,427,410.736	124.190 2,288,500,139	120.727 2,224,686,015	94.57
2	日本	親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	80,616,943	1.0019 80,770,115	1.0019 80,770,115	3.43

(注) 1 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

2 投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。
親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

b. 投資有価証券の種類別比率

円ヘッジ・コース

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	95.28
親投資信託受益証券	3.02
合計	98.30

米ドルブル・コース

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	92.61
親投資信託受益証券	1.77
合計	94.38

米ドルベア・コース

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	94.58
親投資信託受益証券	3.24
合計	97.82

ユーロブル・コース

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	92.76
親投資信託受益証券	3.48
合計	96.24

ユーロベア・コース

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	94.37
親投資信託受益証券	2.53
合計	96.90

レアルブル・コース

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	94.14
親投資信託受益証券	3.52
合計	97.66

豪ドルブル・コース

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	94.57
親投資信託受益証券	3.43
合計	98.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の評価額比率です。

【投資不動産物件】

円ヘッジ・コース、米ドルブル・コース、米ドルベア・コース、ユーロブル・コース、ユーロベア・コース、リアルブル・コース、豪ドルブル・コース

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

円ヘッジ・コース、米ドルブル・コース、米ドルベア・コース、ユーロブル・コース、ユーロベア・コース、リアルブル・コース、豪ドルブル・コース

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成24年3月末日及び同日前1年以内における各月末及び各特定期間末日の純資産の推移は次の通りです。

円ヘッジ・コース

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	15,906	16,056	1.0660	1.0760
平成23年11月末日	15,608	-	0.9968	-
平成23年12月末日	15,837	-	0.9940	-
平成24年1月末日	16,150	-	1.0297	-
平成24年2月末日	15,845	-	1.0567	-
平成24年3月末日	15,084	-	1.0574	-

米ドルブル・コース

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	900	908	1.1548	1.1648
平成23年11月末日	407	-	1.0060	-
平成23年12月末日	418	-	1.0014	-
平成24年1月末日	560	-	1.0218	-
平成24年2月末日	596	-	1.1029	-
平成24年3月末日	1,250	-	1.1287	-

米ドルベア・コース

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	1,107	1,119	0.9818	0.9918
平成23年11月末日	1,511	-	0.9877	-
平成23年12月末日	1,495	-	0.9866	-

平成24年1月末日	1,438	-	1.0382	-
平成24年2月末日	1,196	-	1.0126	-
平成24年3月末日	1,079	-	0.9890	-

ユーロブル・コース

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	78	79	1.1131	1.1231
平成23年11月末日	98	-	0.9945	-
平成23年12月末日	106	-	0.9635	-
平成24年1月末日	263	-	0.9960	-
平成24年2月末日	108	-	1.0974	-
平成24年3月末日	75	-	1.1089	-

ユーロペア・コース

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	2,656	2,683	1.0087	1.0187
平成23年11月末日	2,348	-	0.9984	-
平成23年12月末日	2,569	-	1.0235	-
平成24年1月末日	2,946	-	1.0622	-
平成24年2月末日	2,471	-	1.0079	-
平成24年3月末日	2,493	-	0.9952	-

リアルブル・コース

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	3,520	3,557	1.1858	1.1958
平成23年11月末日	5,489	-	0.9920	-
平成23年12月末日	5,566	-	0.9840	-
平成24年1月末日	5,876	-	1.0723	-
平成24年2月末日	4,898	-	1.1983	-
平成24年3月末日	2,953	-	1.1500	-

豪ドルブル・コース

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)

第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	2,536	2,562	1.2369	1.2469
平成23年11月末日	3,477	-	1.0250	-
平成23年12月末日	3,484	-	1.0355	-
平成24年1月末日	3,827	-	1.1040	-
平成24年2月末日	3,902	-	1.2142	-
平成24年3月末日	2,352	-	1.2035	-

(注) 分配付の金額は、特定期間末の金額に当該特定期間中の分配金累計額を加算した金額です。

【分配の推移】

円ヘッジ・コース

	1口当たりの分配金(円)
第1期 特定期間(平成23年11月22日～平成24年3月15日)	0.0100

米ドルブル・コース

	1口当たりの分配金(円)
第1期 特定期間(平成23年11月22日～平成24年3月15日)	0.0100

米ドルベア・コース

	1口当たりの分配金(円)
第1期 特定期間(平成23年11月22日～平成24年3月15日)	0.0100

ユーロブル・コース

	1口当たりの分配金(円)
第1期 特定期間(平成23年11月22日～平成24年3月15日)	0.0100

ユーロベア・コース

	1口当たりの分配金(円)
第1期 特定期間(平成23年11月22日～平成24年3月15日)	0.0100

リアルブル・コース

	1口当たりの分配金(円)
第1期 特定期間(平成23年11月22日～平成24年3月15日)	0.0100

豪ドルブル・コース

	1口当たりの分配金(円)
第1期 特定期間(平成23年11月22日～平成24年3月15日)	0.0100

【収益率の推移】

円ヘッジ・コース

	収益率(%)
第1期 特定期間(平成23年11月22日～平成24年3月15日)	7.60

米ドルブル・コース

	収益率（％）
第1期 特定期間（平成23年11月22日～平成24年3月15日）	16.48

米ドルベア・コース

	収益率（％）
第1期 特定期間（平成23年11月22日～平成24年3月15日）	0.82

ユーロブル・コース

	収益率（％）
第1期 特定期間（平成23年11月22日～平成24年3月15日）	12.31

ユーロベア・コース

	収益率（％）
第1期 特定期間（平成23年11月22日～平成24年3月15日）	1.87

リアルブル・コース

	収益率（％）
第1期 特定期間（平成23年11月22日～平成24年3月15日）	19.58

豪ドルブル・コース

	収益率（％）
第1期 特定期間（平成23年11月22日～平成24年3月15日）	24.69

（注）収益率とは、特定期間末の基準価額（分配付の額）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落の額、以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。なお、第1期特定期間においては、前期末基準価額（1万口当たり）を1万円として計算しています。（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（参考）マネーアカウントマザーファンドの状況

以下は、平成24年3月30日現在の状況です。

（1）投資状況

親投資信託資産の種類別、地域別の投資状況

資産の種類	国名	時価合計（百万円）	投資比率（％）
国債証券	日本	670	83.75
コール・ローン、その他の資産（負債差引後）	日本	130	16.25
合計（純資産総額）	-	800	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。
（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（2）投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a．評価額上位銘柄（全銘柄）

	国名	種類	銘柄名	券面総額 (円)	簿価単価(円) 簿価金額(円)	時価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)	クー ポン (%)	償還日
1	日本	国債証券	第261回国庫短期証券	650,000,000	99.97 649,836,127	99.97 649,836,127	81.25	-	H24.5.28
2	日本	国債証券	第257回国庫短期証券	20,000,000	99.98 19,997,456	99.98 19,997,456	2.50	-	H24.5.14

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

b. 投資有価証券の種類別比率

種類	投資比率(%)
国債証券	83.75
合計	83.75

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の評価額比率です。

投資不動産物件
該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの
該当事項はありません。

(4) 【設定及び解約の実績】

円ヘッジ・コース

	設定口数	解約口数
第1期 特定期間(平成23年11月22日 ~ 平成24年3月15日)	18,736,641,093	3,815,815,795

米ドルブル・コース

	設定口数	解約口数
第1期 特定期間(平成23年11月22日 ~ 平成24年3月15日)	1,217,702,891	438,083,651

米ドルベア・コース

	設定口数	解約口数
第1期 特定期間(平成23年11月22日 ~ 平成24年3月15日)	1,554,306,146	427,015,194

ユーロブル・コース

	設定口数	解約口数
第1期 特定期間(平成23年11月22日 ~ 平成24年3月15日)	337,485,176	267,770,786

ユーロベア・コース

	設定口数	解約口数
第1期 特定期間(平成23年11月22日 ~ 平成24年3月15日)	3,973,942,079	1,340,524,257

リアルブル・コース

	設定口数	解約口数
第1期 特定期間(平成23年11月22日 ~ 平成24年3月15日)	6,410,049,084	3,442,047,441

豪ドルブル・コース

	設定口数	解約口数
第1期 特定期間（平成23年11月22日～平成24年3月15日）	4,765,908,828	2,715,517,135

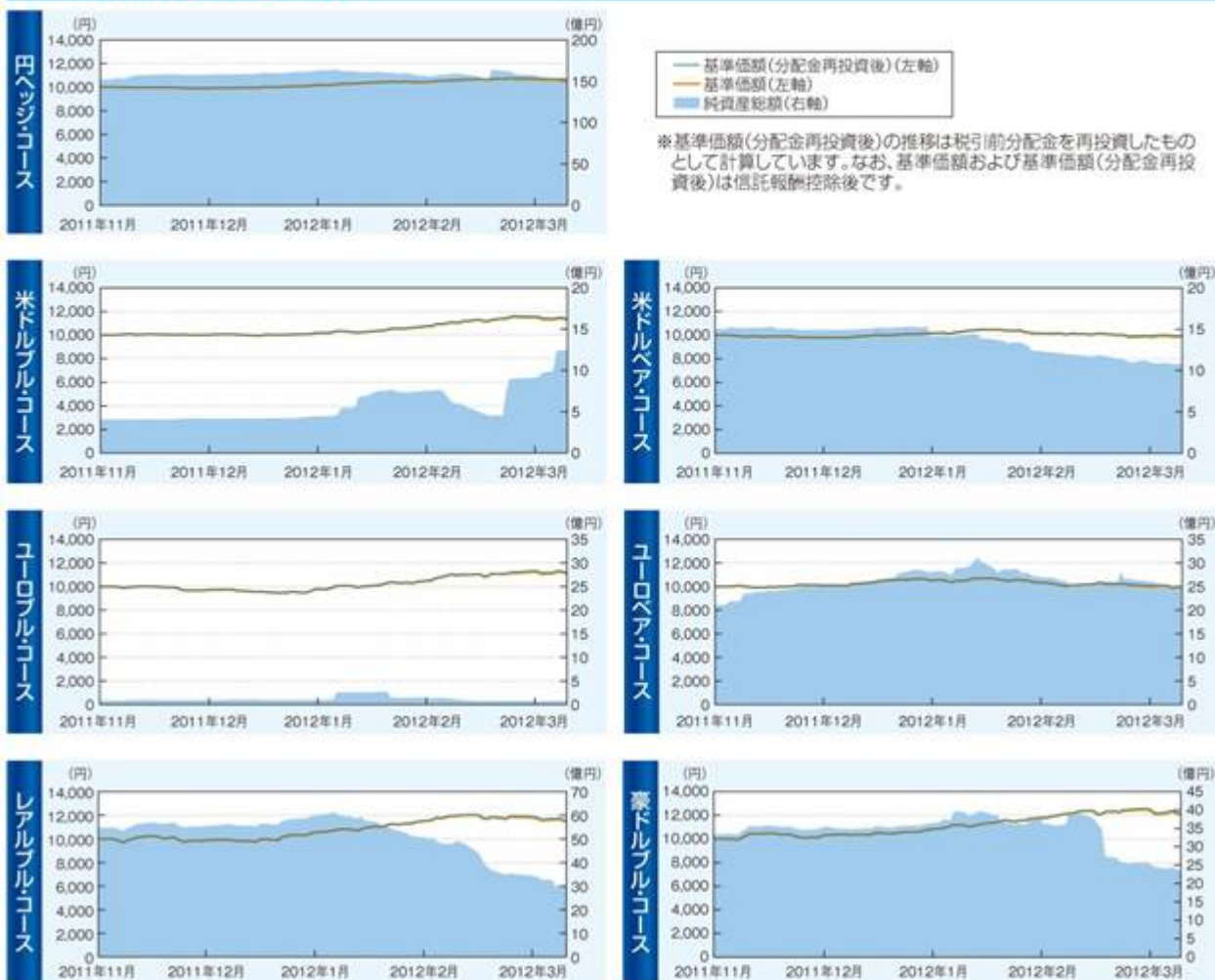
（注）1 第1期特定期間の設定口数には、当初申込期間がある場合の当該設定口数を含みます。

2 設定口数および解約口数は、全て本邦内におけるものです。

（参考）



基準価額・純資産の推移



分配の推移(1万口当たり、税引前)

	円ヘッジコース	米ドルブルコース	米ドルベアコース
2012年3月	50円	50円	50円
2012年2月	50円	50円	50円
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
直近1年間累計	100円	100円	100円
設定来累計	100円	100円	100円

	ユーロブルコース	ユーロベアコース	リアルブルコース	豪ドルブルコース
2012年3月	50円	50円	50円	50円
2012年2月	50円	50円	50円	50円
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
直近1年間累計	100円	100円	100円	100円
設定来累計	100円	100円	100円	100円

主要な資産の状況

●投資比率

円ヘッジコース	
エマーシングマーケットハイールドボンドファンドClass A- JPY Hedged Class	95.3%
マネーアカウントマザーファンド	3.0%
コールローン、その他	1.7%
合 計	100.0%

米ドルブルコース	
エマーシングマーケットハイールドボンドファンドClass B- USD Bull Class	92.6%
マネーアカウントマザーファンド	1.8%
コールローン、その他	5.6%
合 計	100.0%

米ドルベアコース	
エマーシングマーケットハイールドボンドファンドClass C- USD Bear Class	94.6%
マネーアカウントマザーファンド	3.2%
コールローン、その他	2.2%
合 計	100.0%

ユーロブルコース	
エマーシングマーケットハイールドボンドファンドClass D- EUR Bull Class	92.8%
マネーアカウントマザーファンド	3.5%
コールローン、その他	3.7%
合 計	100.0%

ユーロベアコース	
エマーシングマーケットハイールドボンドファンドClass E- EUR Bear Class	94.4%
マネーアカウントマザーファンド	2.5%
コールローン、その他	3.1%
合 計	100.0%

リアルブルコース	
エマーシングマーケットハイールドボンドファンドClass F- BRL Bull Class	94.1%
マネーアカウントマザーファンド	3.5%
コールローン、その他	2.4%
合 計	100.0%

豪ドルブルコース	
エマーシングマーケットハイールドボンドファンドClass G- AUD Bull Class	94.6%
マネーアカウントマザーファンド	3.4%
コールローン、その他	2.0%
合 計	100.0%

●エマージングマーケット・ハイールドボンドファンドの運用状況(2012年3月末日現在(現地))

<組入上位銘柄>

銘柄名(銘柄数68)	国	通貨	業種	比率
WPE INTL COOPE 10.37% 09/30/20	アルゼンチン	米ドル	独立系エネルギー	2.5%
DIGICEL GROUP 10.5% 04/15/18	ジャマイカ	米ドル	電気通信	2.5%
EVRAZ GROUP SA 6.75% 04/27/18	ロシア	米ドル	金属・鉱業	2.5%
AEROPUERTOS AR 10.75% 12/01/20	アルゼンチン	米ドル	運輸サービス	2.3%
LONGFOR PROPER 9.5% 04/07/16	中国	米ドル	建設	2.3%
CORPORATIVO JA 9.875% 04/06/21	メキシコ	米ドル	建設	2.3%
REPUBLIC OF VE 11.75% 10/21/26	ベネズエラ	米ドル	ソブリン債	2.2%
PETROLEOS DE V 4.9% 10/28/14	ベネズエラ	米ドル	総合エネルギー	2.1%
ALROSA FINANCE 7.75% 11/03/20	ロシア	米ドル	金属・鉱業	2.1%
CHINA SHANSIU 8.5% 05/25/16	中国	米ドル	建築資材	2.1%

<業種別組入比率>

業種	比率
金属・鉱業	13.9%
建設	10.3%
ソブリン債	9.3%
銀行	8.3%
電気通信	6.3%
電気	5.4%
不動産	5.2%
その他業種	35.4%
現金等	5.9%
合計	100.0%

※「エマージングマーケット・ハイールドボンドファンド」の投資顧問会社であるJPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドおよび保管銀行であるBBH(ブラウン・ブラザーズ・ハリマン)より入手したデータをもとに作成しております。

※各項目の比率は、「エマージングマーケット・ハイールドボンドファンド」の純資産総額に対する評価額の比率です。

※変動利付債のクーポンは、現地基準日の経過利息における利率です。

※業種および国は、JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドによる分類です。

●マネーアカウントマザーファンドの運用状況

<組入上位銘柄>

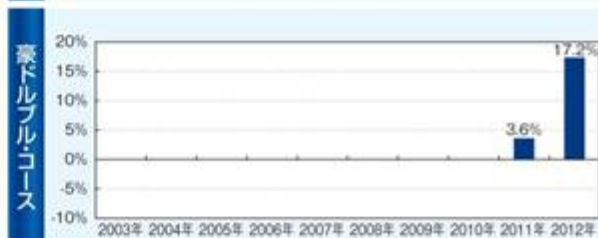
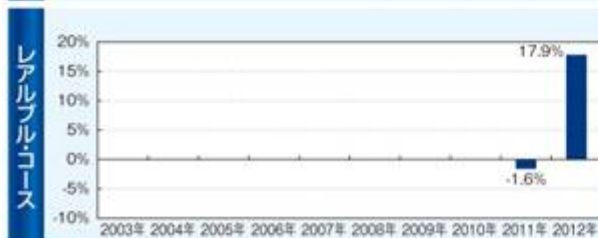
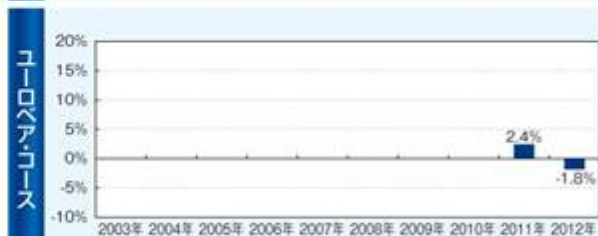
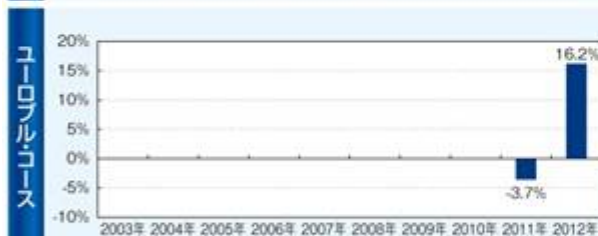
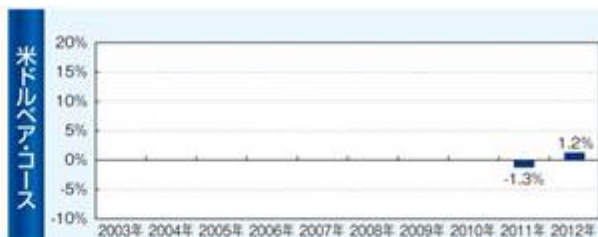
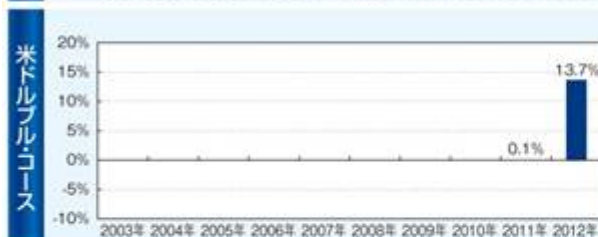
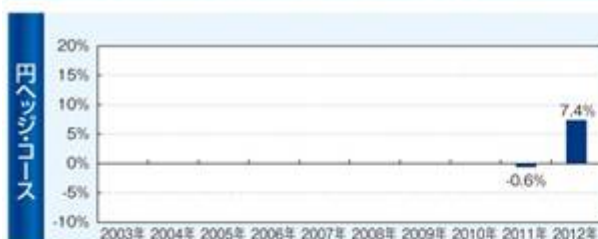
銘柄名(銘柄数2)	種類	償還日	比率
第261回国庫短期証券	国債証券	2012/5/28	81.3%
第257回国庫短期証券	国債証券	2012/5/14	2.5%

<投資比率>

投資比率	比率
公社債	83.8%
コール・ローン、その他	16.2%
合計	100.0%

※比率および投資比率は、マネーアカウントマザーファンドの純資産総額に対する評価額の比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)



※ファンドの収益率は税引前分配金を再投資したものと計算しています。

※ファンドにはベンチマークはありません。

※2011年は設定日(11月22日)から年末まで、2012年は1月から3月末までの騰落率を表示。

- ◆本資料の内容は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- ◆最新の運用状況は委託会社のホームページでご覧いただけます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

当ファンドの受益権の取得申込は、販売会社において取引口座を開設のうえ行うものとします。

取得申込は、申込期間における毎営業日に販売会社で受付けます。ただし、継続申込期間において、下記の申込不可日のいずれかに該当する日には、販売会社の営業日であっても取得申込およびスイッチングの申込を受付けないものとします。申込不可日につきましては、販売会社にお問い合わせください。

< 申込不可日 >

- ・ ロンドンの銀行または金融商品取引所の休業日
- ・ ニューヨークの銀行または金融商品取引所の休業日

当初申込期間においては、当初申込期間の最終日（平成23年11月21日）までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを申込受付分とします。継続申込期間においては、原則として、販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。

当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。ただし、販売会社により受付時間が変更になることもありますのでご注意ください。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

申込方法には、一般コースと自動継続投資コースがあります。自動継続投資コースを選択された場合には、販売会社との間で「自動継続投資契約」を締結していただきます。

これと異なる名称で同一の権利義務関係を規定した契約を含むものとします。

受益権の購入価額（発行価格）は、当初申込期間中は1口当たり1円とし、継続申込期間中は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。購入価額に申込口数を乗じて得た金額が申込金額となります。

当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ、自己のために開設された当ファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払と引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

申込手数料につきましては、販売会社にお問い合わせください。

取得申込者は、申込代金を払込期日までにお申しいただきます販売会社に支払うものとします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、取得申込およびスイッチングの受付を中止することおよびすでに受付けた申込の受付を取消することがあります。

2【換金（解約）手続等】

受益者は、販売会社の定める単位をもって、委託会社に換金申込を行うことができます。ただし、販売会社の営業日であっても申込不可日のいずれかに該当する日には、換金申込を受付けないものとします。申込不可日につきましては、前述の「1 申込（販売）手続等」をご参照ください。

原則として、販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。ただし、販売会社により受付時間が変更になることもありますのでご注意ください。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

委託会社は、換金申込を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。

当ファンドの換金申込を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

換金価額（解約価額）は、換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

換金申込は、振替受益権をもって行うものとします。

委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、換金申込の受付を中止することおよびすでに受付けた換金申込の受付を取消することができます。なお、換金申込の受付が中止された場合には、受益者は当該受付の中止以前に行った当日の換金申込を撤回できます。ただし、受益者がその換金申込を撤回しない場合には、当該受益権の換金価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日（この計算日が申込不可日であるときは、この計算日以降の最初の換金申込を受付けることができる日とします。）に、換金申込を受付けたものとして の規定に準じて計算された価額とします。

換金代金は、換金申込を受付けた日から起算して、原則として6営業日目から販売会社において支払います。ただし、金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、上記原則による支払開始日が遅延する場合があります。

信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込等に制限を設ける場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

換金価額につきましては、委託会社または販売会社にお問い合わせください。

販売会社により、買取請求の取扱いを行う場合がありますが、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

3【資産管理等の概要】

（1）【資産の評価】

基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

当ファンドおよびマザーファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

当ファンドの主な投資対象

- ・外国投資信託受益証券：原則として当ファンドの基準価額計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。
- ・マザーファンド受益証券：原則として当ファンドの基準価額計算日の基準価額で評価します。

マザーファンドの主な投資対象

- ・公社債等：a．日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）
b．金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）
c．価格情報会社の提供する価額

基準価額は毎営業日算出され、販売会社にお問い合わせいただければ、お知らせいたします。また、基準価額は原則として翌日の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

基準価額につきましては、下記においてもご照会いただけます。

T & Dアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-3434-5544（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

（2）【保管】

該当事項はありません。

（3）【信託期間】

当ファンドの信託期間は、平成33年11月15日までですが、後述の「（5）その他 信託の終了」の規定により信託を終了させる場合があります。また、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認められる場合には、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することがあります。

（4）【計算期間】

ファンドの計算期間は、毎月16日から翌月15日までです。該当日が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

初回の計算期間は信託契約締結日から平成24年2月15日までとし、また、最終計算期間の終了日は信託期間の終

了日とします。

（５）【その他】

信託の終了

a．ファンドの繰上償還

- (1) 委託会社は、信託期間中において、この信託契約の一部を解約することにより受益権の総口数が30億口を下回ることとなったとき、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めたとときその他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- (2) 委託会社は、この投資信託が主要投資対象とする外国投資信託が存続しないこととなる場合は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- (3) 委託会社は、(1)の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- (4) (3)の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下(4)において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- (5) (3)の書面決議は議決権を行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- (6) (3)から(5)までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときおよび(2)の規定に基づいてこの信託契約を解約する場合には適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、(3)から(5)までの手続きを行うことが困難な場合も適用しません。

b．委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

c．委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。なお、監督官庁が、この信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、後述の「信託約款の変更」の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

d．受託会社が辞任する場合または受託会社を解任する場合、委託会社は、後述の「信託約款の変更」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更

a．委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

b．委託会社は、aの事項（aの変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。

c．bの書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下cにおいて同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないとき

は、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

- d . bの書面決議は議決権を行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e . 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- f . bからeまでの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- g . aからfの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合に係る一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

関係法人との契約の更改に関する手続

委託会社が販売会社と締結している「投資信託受益権の取扱に関する契約」は、契約満了日の3カ月前までに当事者から別段の意思表示のない限り、1年毎に自動更新されます。

公告

委託会社が投資者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

運用に係る報告等開示方法

3月および9月の決算時および償還時に運用報告書を作成し、知れている受益者に交付します。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。なお、受益者は、自己に帰属する受益権の口数に応じて、均等に当ファンドの受益権を保有します。

(1) 収益分配金の請求権

受益者は、当ファンドの収益分配金を自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に、原則として決算日から起算して5営業日目までに支払を開始します。収益分配金の支払は、販売会社の営業所等にて行うものとします。ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払を請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

上記に関わらず自動継続投資コースを選択した受益者に対しては、分配金は税引後無手数料で再投資されます。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(2) 償還金の請求権

受益者は、当ファンドの償還金を自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。

償還金は、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については、原則として取得申込者として）に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託会社がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

償還金は、原則として信託終了日から起算して5営業日目までに支払を開始します。償還金の支払は、販売会社の営業所等において行います。ただし、受益者が償還金について支払開始日から10年間その支払を請求しないときはその権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

(3) 換金（解約）請求権

受益者は、受益権の換金を販売会社を通じて委託会社に請求することができます。権利行使の方法等については、前述の「2 換金（解約）手続等」をご参照ください。

(4) 反対者の買取請求権

前述の「3 資産管理等の概要(5)その他 信託の終了 a.ファンドの繰上償還」に規定する信託契約の解約または前述の「3 資産管理等の概要(5)その他 信託約款の変更」に規定する信託約款の変更のうち、その内容が重大な変更を行う場合において、書面決議において反対した受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

(5) 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- 1．当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）（以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）（以下「投資信託財産計算規則」という。）に基づいて作成しており、金額は円単位で表示しております。
- 2．当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 3．当ファンドは、第1期特定期間（平成23年11月22日から平成24年3月15日まで）の財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

		第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		629,370,297
投資信託受益証券		15,089,547,729
親投資信託受益証券		454,840,795
未収入金		190,000,000
未収利息		862
流動資産合計		16,363,759,683
資産合計		16,363,759,683
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金		74,604,126
未払解約金		366,650,856
未払受託者報酬		394,153
未払委託者報酬		16,423,126
その他未払費用		105,098
流動負債合計		458,177,359
負債合計		458,177,359
純資産の部		
元本等		
元本		14,920,825,298
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		984,757,026
（分配準備積立金）		860,934,106
元本等合計		15,905,582,324
純資産合計		15,905,582,324
負債純資産合計		16,363,759,683

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第1期 特定期間 （自 平成23年11月22日 至 平成24年 3月15日）
営業収益	
受取配当金	327,170,615
受取利息	103,936
有価証券売買等損益	919,338,524
営業収益合計	1,246,613,075
営業費用	
受託者報酬	1,559,611
委託者報酬	64,983,802
その他費用	415,860
営業費用合計	66,959,273
営業利益	1,179,653,802
経常利益	1,179,653,802
当期純利益	1,179,653,802
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	80,010,953
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	131,828,046
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	131,828,046
剰余金減少額又は欠損金増加額	95,977,710
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	95,977,710
分配金	150,736,159
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	984,757,026

（ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	
1 特定期間の末日における受益権の総数	14,920,825,298口
2 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0660円 10,660円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
分配金の計算過程	平成23年11月22日から平成24年2月15日までの計算期間末における分配対象金額697,130,457円（1万口当たり457円）のうち、76,132,033円（1万口当たり50円）を分配金額としております。 平成24年2月16日から平成24年3月15日までの計算期間末における分配対象金額1,059,361,152円（1万口当たり709円）のうち、74,604,126円（1万口当たり50円）を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)	
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コールローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、（その他の注記）2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。

3 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社においては、運用部門と独立した運用審査委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。 市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。 信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。 流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれることがあります。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

金融商品の時価等に関する事項

	第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	投資信託受益証券、親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の 1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。 コールローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。

(関連当事者との取引に関する注記)

第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
該当事項はありません。

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別 第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
期首元本額	- 円
期中追加設定元本額	18,736,641,093 円
期中一部解約元本額	3,815,815,795 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第1期 特定期間（自平成23年11月22日 至平成24年3月15日）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	354,593,575 円
親投資信託受益証券	0 円
合計	354,593,575 円

3 デリバティブ取引関係

第1期 特定期間（自平成23年11月22日 至平成24年3月15日）

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

a．株式

該当事項はありません。

b．株式以外の有価証券

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
投資信託 受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボ ンドファンド Class A- JPY Hedged Class	142,064,733.460	15,089,547,729	
合計		142,064,733.460	15,089,547,729	

（注）投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	453,978,237	454,840,795	
合計		453,978,237	454,840,795	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドル・コース】
（1）【貸借対照表】

（単位：円）

		第1期 特定期間 （平成24年3月15日現在）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		51,521,482
投資信託受益証券		849,341,245
親投資信託受益証券		22,142,425
未収利息		70
流動資産合計		923,005,222
資産合計		923,005,222
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金		3,898,096
未払解約金		18,147,463
未払受託者報酬		15,873
未払委託者報酬		661,362
その他未払費用		4,222
流動負債合計		22,727,016
負債合計		22,727,016
純資産の部		
元本等		
元本		779,619,240
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		120,658,966
（分配準備積立金）		56,787,122
元本等合計		900,278,206
純資産合計		900,278,206
負債純資産合計		923,005,222

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第1期 特定期間 (自 平成23年11月22日 至 平成24年 3月15日)
営業収益	
受取配当金	11,328,492
受取利息	6,000
有価証券売買等損益	90,843,670
営業収益合計	102,178,162
営業費用	
受託者報酬	50,855
委託者報酬	2,118,888
その他費用	13,519
営業費用合計	2,183,262
営業利益	99,994,900
経常利益	99,994,900
当期純利益	99,994,900
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	17,665,110
期首剰余金又は期首欠損金()	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	71,691,106
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	71,691,106
剰余金減少額又は欠損金増加額	25,993,626
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	25,993,626
分配金	7,368,304
期末剰余金又は期末欠損金()	120,658,966

（ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	
1 特定期間の末日における受益権の総数	779,619,240口
2 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	1.1548円
(1万口当たり純資産額)	11,548円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
分配金の計算過程	平成23年11月22日から平成24年2月15日までの計算期間末における分配対象金額45,070,727円（1万口当たり649円）のうち、3,470,208円（1万口当たり50円）を分配金額としております。 平成24年2月16日から平成24年3月15日までの計算期間末における分配対象金額124,557,062円（1万口当たり1,597円）のうち、3,898,096円（1万口当たり50円）を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)	
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コールローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、（その他の注記）2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。

3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社においては、運用部門と独立した運用審査委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。</p> <p>市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれることがあります。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。</p>

金融商品の時価等に関する事項

	<p>第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)</p>
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	<p>証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p>
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	<p>投資信託受益証券、親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。</p> <p>コールローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。</p>

(関連当事者との取引に関する注記)

<p>第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)</p>
<p>該当事項はありません。</p>

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別 第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
期首元本額	- 円
期中追加設定元本額	1,217,702,891 円
期中一部解約元本額	438,083,651 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第1期 特定期間（自平成23年11月22日 至平成24年3月15日）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	46,467,644 円
親投資信託受益証券	1 円
合計	46,467,645 円

3 デリバティブ取引関係

第1期 特定期間（自平成23年11月22日 至平成24年3月15日）

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

a．株式

該当事項はありません。

b．株式以外の有価証券

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
投資信託 受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボ ンドファンド Class B- USD Bull Class	7,345,908.148	849,341,245	
合計		7,345,908.148	849,341,245	

（注）投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	22,100,435	22,142,425	
合計		22,100,435	22,142,425	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドルペア・コース】
（1）【貸借対照表】

（単位：円）

		第1期 特定期間 （平成24年3月15日現在）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		45,096,550
投資信託受益証券		1,047,484,653
親投資信託受益証券		34,978,978
未収利息		61
流動資産合計		1,127,560,242
資産合計		1,127,560,242
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金		5,636,454
未払解約金		13,822,668
未払受託者報酬		29,966
未払委託者報酬		1,248,627
その他未払費用		7,981
流動負債合計		20,745,696
負債合計		20,745,696
純資産の部		
元本等		
元本		1,127,290,952
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		20,476,406
（分配準備積立金）		25,545,298
元本等合計		1,106,814,546
純資産合計		1,106,814,546
負債純資産合計		1,127,560,242

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第1期 特定期間 （自 平成23年11月22日 至 平成24年 3月15日）
営業収益	
受取配当金	28,454,163
受取利息	6,245
有価証券売買等損益	22,506,369
営業収益合計	5,954,039
営業費用	
受託者報酬	137,898
委託者報酬	5,745,998
その他費用	36,737
営業費用合計	5,920,633
営業利益	33,406
経常利益	33,406
当期純利益	33,406
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	4,978,452
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	143,085
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	33,544
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	109,541
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,615,689
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,615,689
分配金	12,058,756
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	20,476,406

（ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	
1 特定期間の末日における受益権の総数	1,127,290,952口
2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損	20,476,406円
3 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.9818円 9,818円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
項 目	
分配金の計算過程	平成23年11月22日から平成24年2月15日までの計算期間末における分配対象金額35,694,074円（1万口当たり277円）のうち、6,422,302円（1万口当たり50円）を分配金額としております。 平成24年2月16日から平成24年3月15日までの計算期間末における分配対象金額31,316,122円（1万口当たり277円）のうち、5,636,454円（1万口当たり50円）を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)	
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コールローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、（その他の注記）2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。

3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社においては、運用部門と独立した運用審査委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。</p> <p>市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれることがあります。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。</p>

金融商品の時価等に関する事項

第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	<p>投資信託受益証券、親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。</p> <p>コールローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。</p>

(関連当事者との取引に関する注記)

第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)	
該当事項はありません。	

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
期首元本額		- 円
期中追加設定元本額		1,554,306,146 円
期中一部解約元本額		427,015,194 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第1期 特定期間（自平成23年11月22日 至平成24年3月15日）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	46,436,495 円
親投資信託受益証券	1 円
合計	46,436,496 円

3 デリバティブ取引関係

第1期 特定期間（自平成23年11月22日 至平成24年3月15日）

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

a．株式

該当事項はありません。

b．株式以外の有価証券

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
投資信託 受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボ ンドファンド Class C- USD BearClass	10,761,644.352	1,047,484,653	
合計		10,761,644.352	1,047,484,653	

（注）投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	34,912,644	34,978,978	
合計		34,912,644	34,978,978	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロブル・コース】
（1）【貸借対照表】

（単位：円）

第1期 特定期間 （平成24年3月15日現在）	
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	2,023,800
投資信託受益証券	73,407,434
親投資信託受益証券	2,600,519
未収入金	1,700,000
未収利息	2
流動資産合計	79,731,755
資産合計	79,731,755
負債の部	
流動負債	
未払収益分配金	348,571
未払解約金	1,668,300
未払受託者報酬	2,721
未払委託者報酬	113,443
その他未払費用	716
流動負債合計	2,133,751
負債合計	2,133,751
純資産の部	
元本等	
元本	69,714,390
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	7,883,614
（分配準備積立金）	6,104,859
元本等合計	77,598,004
純資産合計	77,598,004
負債純資産合計	79,731,755

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第1期 特定期間 (自 平成23年11月22日 至 平成24年 3月15日)
営業収益	
受取配当金	3,009,921
受取利息	2,080
有価証券売買等損益	17,007,953
営業収益合計	20,019,954
営業費用	
受託者報酬	12,250
委託者報酬	510,406
その他費用	3,229
営業費用合計	525,885
営業利益	19,494,069
経常利益	19,494,069
当期純利益	19,494,069
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	9,707,514
期首剰余金又は期首欠損金()	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	3,411,569
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	935,791
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	2,475,778
剰余金減少額又は欠損金増加額	4,271,537
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,494,793
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	776,744
分配金	1,042,973
期末剰余金又は期末欠損金()	7,883,614

（ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	
1 特定期間の末日における受益権の総数	69,714,390口
2 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	1.1131円
(1万口当たり純資産額)	11,131円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
分配金の計算過程	平成23年11月22日から平成24年2月15日までの計算期間末における分配対象金額5,472,800円(1万口当たり394円)のうち、694,402円(1万口当たり50円)を分配金額としております。 平成24年2月16日から平成24年3月15日までの計算期間末における分配対象金額8,232,185円(1万口当たり1,180円)のうち、348,571円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)	
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コールローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、(その他の注記)2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。

3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社においては、運用部門と独立した運用審査委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。</p> <p>市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれることがあります。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。</p>

金融商品の時価等に関する事項

	<p>第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)</p>
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	<p>証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p>
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	<p>投資信託受益証券、親投資信託受益証券については、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)の1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。</p> <p>コールローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。</p>

(関連当事者との取引に関する注記)

<p>第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)</p>
<p>該当事項はありません。</p>

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
期首元本額		- 円
期中追加設定元本額		337,485,176 円
期中一部解約元本額		267,770,786 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第1期 特定期間(自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	4,920,229 円
親投資信託受益証券	0 円
合計	4,920,229 円

3 デリバティブ取引関係

第1期 特定期間(自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

a．株式

該当事項はありません。

b．株式以外の有価証券

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
投資信託受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボンドファンド Class D- EUR Bull Class	659,990.420	73,407,434	
合計		659,990.420	73,407,434	

（注）投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	2,595,588	2,600,519	
合計		2,595,588	2,600,519	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロペア・コース】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

		第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		262,571,752
投資信託受益証券		2,486,907,008
親投資信託受益証券		63,197,615
未収利息		359
流動資産合計		2,812,676,734
資産合計		2,812,676,734
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金		13,167,089
未払解約金		140,233,594
未払受託者報酬		65,734
未払委託者報酬		2,738,838
その他未払費用		17,519
流動負債合計		156,222,774
負債合計		156,222,774
純資産の部		
元本等		
元本		2,633,417,822
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		23,036,138
(分配準備積立金)		60,524,506
元本等合計		2,656,453,960
純資産合計		2,656,453,960
負債純資産合計		2,812,676,734

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第1期 特定期間 （自 平成23年11月22日 至 平成24年 3月15日）
営業収益	
受取配当金	54,498,123
受取利息	25,148
有価証券売買等損益	980,377
営業収益合計	53,542,894
営業費用	
受託者報酬	257,771
委託者報酬	10,740,204
その他費用	68,703
営業費用合計	11,066,678
営業利益	42,476,216
経常利益	42,476,216
当期純利益	42,476,216
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	27,126,805
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	65,475,875
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	65,475,875
剰余金減少額又は欠損金増加額	31,377,297
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	31,377,297
分配金	26,411,851
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	23,036,138

（ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	
1 特定期間の末日における受益権の総数	2,633,417,822口
2 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	1.0087円
(1万口当たり純資産額)	10,087円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
分配金の計算過程	平成23年11月22日から平成24年2月15日までの計算期間末における分配対象金額134,860,891円(1万口当たり509円)のうち、13,244,762円(1万口当たり50円)を分配金額としております。 平成24年2月16日から平成24年3月15日までの計算期間末における分配対象金額93,429,945円(1万口当たり354円)のうち、13,167,089円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コールローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、(その他の注記)2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。

3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社においては、運用部門と独立した運用審査委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。</p> <p>市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれることがあります。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。</p>

金融商品の時価等に関する事項

	<p>第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)</p>
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	<p>証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p>
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	<p>投資信託受益証券、親投資信託受益証券については、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)の1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。</p> <p>コールローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。</p>

(関連当事者との取引に関する注記)

<p>第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)</p>
<p>該当事項はありません。</p>

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別 第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
期首元本額	- 円
期中追加設定元本額	3,973,942,079 円
期中一部解約元本額	1,340,524,257 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第1期 特定期間(自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	87,482,630 円
親投資信託受益証券	0 円
合計	87,482,630 円

3 デリバティブ取引関係

第1期 特定期間(自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

a．株式

該当事項はありません。

b．株式以外の有価証券

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
投資信託 受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボ ンドファンド Class E- EUR Bear Class	24,796,663.828	2,486,907,008	
合計		24,796,663.828	2,486,907,008	

（注）投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	63,077,768	63,197,615	
合計		63,077,768	63,197,615	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）リアルブル・コース】
（1）【貸借対照表】

（単位：円）

第1期 特定期間 （平成24年3月15日現在）	
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	121,851,731
投資信託受益証券	3,337,927,444
親投資信託受益証券	103,932,723
未収入金	30,000,000
未収利息	166
流動資産合計	3,593,712,064
資産合計	3,593,712,064
負債の部	
流動負債	
未払収益分配金	14,840,008
未払解約金	54,443,647
未払受託者報酬	113,481
未払委託者報酬	4,728,353
その他未払費用	30,253
流動負債合計	74,155,742
負債合計	74,155,742
純資産の部	
元本等	
元本	2,968,001,643
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	551,554,679
（分配準備積立金）	486,247,838
元本等合計	3,519,556,322
純資産合計	3,519,556,322
負債純資産合計	3,593,712,064

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第1期 特定期間 （自 平成23年11月22日 至 平成24年 3月15日）
営業収益	
受取配当金	108,231,728
受取利息	41,232
有価証券売買等損益	898,260,167
営業収益合計	1,006,533,127
営業費用	
受託者報酬	528,989
委託者報酬	22,041,212
その他費用	141,027
営業費用合計	22,711,228
営業利益	983,821,899
経常利益	983,821,899
当期純利益	983,821,899
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	214,481,014
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	97,340,937
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	97,340,937
剰余金減少額又は欠損金増加額	277,334,430
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	277,334,430
分配金	37,792,713
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	551,554,679

（３）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	
1 特定期間の末日における受益権の総数	2,968,001,643口
2 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	1.1858円
(1万口当たり純資産額)	11,858円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
分配金の計算過程	平成23年11月22日から平成24年2月15日までの計算期間末における分配対象金額621,332,053円(1万口当たり1,353円)のうち、22,952,705円(1万口当たり50円)を分配金額としております。 平成24年2月16日から平成24年3月15日までの計算期間末における分配対象金額566,394,687円(1万口当たり1,908円)のうち、14,840,008円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)	
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コールローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、(その他の注記)2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。

3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社においては、運用部門と独立した運用審査委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。</p> <p>市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれることがあります。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。</p>

金融商品の時価等に関する事項

	<p>第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)</p>
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	<p>証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p>
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	<p>投資信託受益証券、親投資信託受益証券については、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)の1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。</p> <p>コールローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。</p>

(関連当事者との取引に関する注記)

<p>第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)</p>
<p>該当事項はありません。</p>

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
期首元本額		- 円
期中追加設定元本額		6,410,049,084 円
期中一部解約元本額		3,442,047,441 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第1期 特定期間(自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	157,732,074 円
親投資信託受益証券	1 円
合計	157,732,073 円

3 デリバティブ取引関係

第1期 特定期間(自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

a．株式

該当事項はありません。

b．株式以外の有価証券

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
投資信託 受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボ ンドファンド Class F- BRL Bull Class	28,081,195.321	3,337,927,444	
合計		28,081,195.321	3,337,927,444	

（注）投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	103,735,626	103,932,723	
合計		103,735,626	103,932,723	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）豪ドルブル・コース】
（1）【貸借対照表】

（単位：円）

		第1期 特定期間 （平成24年3月15日現在）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		219,609,749
投資信託受益証券		2,400,195,045
親投資信託受益証券		80,770,115
未収入金		20,000,000
未収利息		300
流動資産合計		2,720,575,209
資産合計		2,720,575,209
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金		10,251,958
未払解約金		170,383,385
未払受託者報酬		87,387
未払委託者報酬		3,641,029
その他未払費用		23,291
流動負債合計		184,387,050
負債合計		184,387,050
純資産の部		
元本等		
元本		2,050,391,693
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		485,796,466
（分配準備積立金）		374,115,930
元本等合計		2,536,188,159
純資産合計		2,536,188,159
負債純資産合計		2,720,575,209

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第1期 特定期間 (自 平成23年11月22日 至 平成24年 3月15日)
営業収益	
受取配当金	75,973,104
受取利息	30,271
有価証券売買等損益	719,915,160
営業収益合計	795,918,535
営業費用	
受託者報酬	350,983
委託者報酬	14,624,182
その他費用	93,551
営業費用合計	15,068,716
営業利益	780,849,819
経常利益	780,849,819
当期純利益	780,849,819
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	180,033,142
期首剰余金又は期首欠損金()	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	201,575,168
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	201,575,168
剰余金減少額又は欠損金増加額	290,675,425
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	290,675,425
分配金	25,919,954
期末剰余金又は期末欠損金()	485,796,466

（ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)	
1 特定期間の末日における受益権の総数	2,050,391,693口
2 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.2369円 12,369円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
分配金の計算過程	平成23年11月22日から平成24年2月15日までの計算期間末における分配対象金額506,667,910円（1万口当たり1,616円）のうち、15,667,996円（1万口当たり50円）を分配金額としております。 平成24年2月16日から平成24年3月15日までの計算期間末における分配対象金額496,048,424円（1万口当たり2,419円）のうち、10,251,958円（1万口当たり50円）を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)	
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コールローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、（その他の注記）2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。

3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社においては、運用部門と独立した運用審査委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。</p> <p>市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれることがあります。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。</p>

金融商品の時価等に関する事項

	第1期 特定期間 (平成24年3月15日現在)
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	<p>投資信託受益証券、親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。</p> <p>コールローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。</p>

(関連当事者との取引に関する注記)

第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
該当事項はありません。

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別	第1期 特定期間 (自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)
期首元本額		- 円
期中追加設定元本額		4,765,908,828 円
期中一部解約元本額		2,715,517,135 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第1期 特定期間（自平成23年11月22日 至平成24年3月15日）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	153,877,488 円
親投資信託受益証券	1 円
合計	153,877,487 円

3 デリバティブ取引関係

第1期 特定期間（自平成23年11月22日 至平成24年3月15日）

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

a．株式

該当事項はありません。

b．株式以外の有価証券

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
投資信託 受益証券	エマージングマーケット・ハイイールドボ ンドファンド Class G- AUD Bull Class	19,326,486.772	2,400,195,045	
合計		19,326,486.772	2,400,195,045	

（注）投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

（平成24年3月15日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	マネーアカウントマザーファンド	80,616,943	80,770,115	
合計		80,616,943	80,770,115	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）マネーアカウントマザーファンドの状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

当ファンドは「マネーアカウントマザーファンド」受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンド受益証券です。

（１）貸借対照表

（単位：円）

科 目	対象年月日	（平成24年3月15日現在）
		金額
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		129,958,606
国債証券		669,805,278
未収利息		178
流動資産合計		799,764,062
資産合計		799,764,062
負債の部		
負債合計		-
純資産の部		
元本等		
元本		798,240,854
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		1,523,208
元本等合計		799,764,062
純資産合計		799,764,062
負債純資産合計		799,764,062

（２）注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準及び評価方法	<p>国債証券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、原則として、市場価額のあるものについてはその終値（終値のないものについてはそれに準ずる価額）、金融商品取引所に上場されていないものについては、以下のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）値段 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない） 価額情報会社の提供する価額</p> <p>なお、買付にかかる約定日から1年以内で償還を迎える公社債等（償還日の前年応答日が到来したものを含む、）で価格変動性が限定的であり、償却原価法による評価方法が合理的かつ受益者の利害を害しないと投資信託委託会社が判断した場合には、当該方式によって評価しております。</p>
2 費用・収益の計上基準	<p>有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

（平成24年3月15日現在）	
1 計算期間の末日における受益権の総数	798,240,854口

2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額

1口当たり純資産額	1.0019円
(1万口当たり純資産額)	10,019円)

(その他の注記)

1 元本の移動

項目	対象年月日	(平成24年3月15日現在)
期首元本額		37,223,613 円
期中追加設定元本額		850,846,568 円
期中一部解約元本額		89,829,327 円
期末元本額		798,240,854 円
元本の内訳*		
中国A株ファンド		37,223,613 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)円ヘッジ・コース		453,978,237 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)米ドルブル・コース		22,100,435 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)米ドルベア・コース		34,912,644 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)ユーロブル・コース		2,595,588 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)ユーロベア・コース		63,077,768 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)リアルブル・コース		103,735,626 円
T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド(毎月分配型)豪ドルブル・コース		80,616,943 円
合計		798,240,854 円

* 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

2 売買目的有価証券の貸借対照表計上額等

(自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)

種類	貸借対照表計上額	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	669,805,278 円	0 円
合計	669,805,278 円	0 円

3 デリバティブ取引関係

(自平成23年11月22日 至平成24年3月15日)

該当事項はありません。

(3) 附属明細表

有価証券明細表

a. 株式

該当事項はありません。

b. 株式以外の有価証券

(平成24年3月15日現在)

種類	銘柄	額面総額(円)	評価額(円)	備考
国債証券	第257回国庫短期証券	20,000,000	19,996,616	

	第261回国庫短期証券	650,000,000	649,808,662	
合計		670,000,000	669,805,278	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

以下は、平成24年3月30日現在の状況です。

【純資産額計算書】

円ヘッジ・コース

資産総額	15,258,019,947円
負債総額	173,541,055円
純資産総額（ - ）	15,084,478,892円
発行済数量	14,265,747,373口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.0574円

米ドルブル・コース

資産総額	1,268,420,483円
負債総額	18,636,115円
純資産総額（ - ）	1,249,784,368円
発行済数量	1,107,273,366口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.1287円

米ドルベア・コース

資産総額	1,084,356,213円
負債総額	4,871,864円
純資産総額（ - ）	1,079,484,349円
発行済数量	1,091,529,719口
1 単位当たり純資産額（ / ）	0.9890円

ユーロブル・コース

資産総額	74,867,900円
負債総額	191,933円
純資産総額（ - ）	74,675,967円
発行済数量	67,342,461口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.1089円

ユーロベア・コース

資産総額	2,519,756,650円
負債総額	26,418,950円
純資産総額（ - ）	2,493,337,700円
発行済数量	2,505,269,903口
1 単位当たり純資産額（ / ）	0.9952円

リアルブル・コース

資産総額	2,973,998,367円
負債総額	21,080,419円
純資産総額（ - ）	2,952,917,948円
発行済数量	2,567,744,648口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.1500円

豪ドルブル・コース

資産総額	2,384,888,127円
負債総額	32,411,953円
純資産総額（ - ）	2,352,476,174円

発行済数量	1,954,638,701口
1 単位当たり純資産額 (/)	1.2035円

(参考) マネーアカウントマザーファンド

資産総額	799,795,037円
負債総額	- 円
純資産総額 (-)	799,795,037円
発行済数量	798,240,854口
1 単位当たり純資産額 (/)	1.0019円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

当ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

1．名義書換についての手続、取扱場所等

該当事項はありません。

2．受益者に対する特典

該当事項はありません。

3．受益権の譲渡

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡の手続および受益権の譲渡の対抗要件は以下によるものとします。

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

委託会社は、上記 に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

4．受益権の再分割

委託会社は、受託会社と合意のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。

5．質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払、換金申込の受付、換金代金および償還金の支払等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

（1）資本金の額

平成24年3月末日現在の資本金の額	11億円
会社が発行する株式の総数	2,294,100株
発行済株式総数	1,082,500株

（2）会社の機構

経営体制

16名以内の取締役が、株主総会において選任されます。取締役の選任は株主総会において、総株主の議決権の3分の1以上に当たる株式を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行い、累積投票によらないものとし、

取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとし、補欠により選任された取締役の任期は、前任者の残任期間とします。

取締役会はその決議をもって、取締役中より取締役会長、取締役社長各1名、取締役副社長、専務取締役および常務取締役若干名を選定することができます。また取締役中より代表取締役を選定します。

取締役会は、取締役社長が招集します。取締役社長に事故があるときは、取締役会においてあらかじめ定めた順序により、他の取締役がこれを招集します。取締役会の招集通知は2日前までにこれを発します。ただし、緊急の場合は、この期間を短縮することができます。また取締役および監査役全員の同意がある場合は、これを省略することができます。

取締役会は、法令または定款に定める事項の他、業務執行に関する重要事項を決定します。その決議は、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって行います。

投資信託運用の意思決定と運用の流れ

- a. 基本運用方針、月次運用計画の決定
 - ・投資政策委員会（原則月1回開催）において投資信託の基本運用方針に関する事項が審議・決定され、各運用部長において月次運用計画に関する事項が決定されます。
- b. 運用の実行
 - ・月次運用計画に沿って、ファンド・マネージャーからトレーディング部に売買発注指示があり、売買が執行されます。
- c. 運用のチェック等
 - ・業務管理部において、運用上の諸リスクの管理および運用実績の評価等を行い、運用審査委員会にて報告・審議が行われます。
 - ・法務・コンプライアンス部において、コンプライアンス・チェック（法令や忠実義務に照らして適正な運用がなされているかどうかのチェック）が実施され、コンプライアンス委員会および取締役会に報告を行っています。

会社の機構は平成24年3月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務および第二種金融商品取引業を行っています。

委託会社の運用する証券投資信託は平成24年3月末日現在、142本であり、その純資産総額の合計は1,252,152百万円です（ただし、親投資信託を除きます。）。

種類	本数	純資産額
追加型株式投資信託	127本	1,169,260百万円
単位型株式投資信託	6本	46,095百万円
追加型公社債投資信託	1本	19,761百万円
単位型公社債投資信託	8本	17,036百万円
合計	142本	1,252,152百万円

3【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。
なお、財務諸表等規則は平成22年9月30日付の内閣府令第45号により改正されておりますが、第30期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）については、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しており、第31期事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）については、内閣府令第45号附則第3条第1項第1号により改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。
また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条及び57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

2. 当社は、第30期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）及び第31期事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。
また、第32期中間会計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

区分	注記 番号	第30期 (平成22年3月31日現在)			第31期 (平成23年3月31日現在)		
		内訳 (千円)	金額 (千円)	構成比 (%)	内訳 (千円)	金額 (千円)	構成比 (%)
(資産の部)							
流動資産							
1. 預金			5,562,429		5,702,490		
2. 前払費用			66,485		64,158		
3. 未収入金	1		86,135		1,771		
4. 未収委託者報酬			986,984		822,206		
5. 未収運用受託報酬			875,927		593,956		
6. 繰延税金資産			172,028		128,819		
7. その他			294		54		
流動資産計			7,750,286	89.1	7,313,456		81.9
固定資産							
1. 有形固定資産							
(1) 建物	2	78,985			67,878		
(2) 器具備品	2	75,925			49,026		
(3) その他		897			897		
2. 無形固定資産							
(1) 電話加入権		2,862			2,862		
(2) ソフトウェア		97,865			99,689		
(3) ソフトウェア仮勘定		426			1,454		
3. 投資その他の資産							
(1) 投資有価証券		62,300			720,221		
(2) 関係会社株式		319,502			319,502		
(3) 長期差入保証金	1	164,953			158,597		
(4) 繰延税金資産		138,998			190,156		
(5) その他		1,998			1,411		
固定資産計			944,714	10.9	1,611,698		18.1
資産合計			8,695,001	100.0	8,925,154		100.0

区分	注記 番号	第30期 (平成22年3月31日現在)			第31期 (平成23年3月31日現在)		
		内訳 (千円)	金額 (千円)	構成比 (%)	内訳 (千円)	金額 (千円)	構成比 (%)
(負債の部)							
流動負債							
1. 預り金			20		284		
2. 未払金			447,618		525,021		
(1) 未払収益分配金		847		789			
(2) 未払償還金		14,964		9,304			
(3) 未払手数料		383,377		283,852			
(4) その他未払金	1	48,428		231,075			
3. 未払費用			773,621		498,064		
4. 未払法人税等			6,079		55,292		
5. 未払消費税等			277		59,362		
6. 賞与引当金			217,219		199,021		
7. 役員賞与引当金			34,500		2,700		
流動負債計			1,479,336	17.0	1,339,746	15.0	
固定負債							
1. 退職給付引当金			315,385		367,274		
2. 役員退職慰労引当金			5,229		14,250		
固定負債計			320,614	3.7	381,524	4.3	
負債合計			1,799,951	20.7	1,721,270	19.3	

区分	注記 番号	第30期 (平成22年3月31日現在)			第31期 (平成23年3月31日現在)		
		内訳 (千円)	金額 (千円)	構成比 (%)	内訳 (千円)	金額 (千円)	構成比 (%)
(純資産の部)							
株主資本							
1. 資本金			1,100,000	12.6		1,100,000	12.3
2. 資本剰余金							
(1) 資本準備金		277,667			277,667		
資本剰余金合計			277,667	3.2		277,667	3.1
3. 利益剰余金							
(1) 利益準備金		175,000			175,000		
(2) その他利益剰余金							
別途積立金		3,137,790			3,137,790		
繰越利益剰余金		2,204,592			2,553,447		
利益剰余金合計			5,517,382	63.5		5,866,237	65.7
株主資本合計			6,895,050	79.3		7,243,905	81.1
評価・換算差額等							
その他有価証券評価差額金			-	0.0		40,021	0.4
評価・換算差額等合計			-	0.0		40,021	0.4
純資産合計			6,895,050	79.3		7,203,883	80.7
負債純資産合計			8,695,001	100.0		8,925,154	100.0

（２）【損益計算書】

区分	注記 番号	第30期 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)			第31期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		
		内訳 (千円)	金額 (千円)	百分比 (%)	内訳 (千円)	金額 (千円)	百分比 (%)
営業収益							
1. 委託者報酬			4,007,860			5,718,504	
2. 運用受託報酬			1,879,487			3,193,133	
3. 投資助言報酬			3,000			1,000	
4. その他営業収益			5,000			-	
営業収益計			5,895,348	100.0		8,912,637	100.0
営業費用							
1. 支払手数料			1,598,776			2,568,280	
2. 広告宣伝費			49,508			42,895	
3. 公告費			1,860			-	
4. 調査費			1,539,888			2,760,595	
(1) 調査費		21,584				27,093	
(2) 委託調査費		1,104,265				2,299,896	
(3) 情報機器関連費		411,652				431,197	
(4) 図書費		2,386				2,407	
5. 委託計算費			240,183			169,489	
6. 営業雑経費			134,848			154,850	
(1) 通信費		11,250				11,498	
(2) 印刷費		76,214				94,041	
(3) 協会費		6,951				8,776	
(4) 諸会費		2,620				2,669	
(5) 紹介手数料		37,811				37,864	
営業費用計			3,565,065	60.5		5,696,112	63.9
一般管理費							
1. 給料			1,634,555			1,606,305	
(1) 役員報酬		56,704				64,551	
(2) 給料・手当		1,498,266				1,460,271	
(3) 賞与		79,585				81,482	
2. 法定福利費			194,388			199,359	
3. 退職金			18,593			1,911	
4. 福利厚生費			3,720			4,367	
5. 交際費			2,204			2,582	
6. 旅費交通費			23,958			32,843	
7. 事務委託費			77,378			93,175	
8. 租税公課			15,926			20,151	
9. 不動産賃借料			173,814			173,594	
10. 退職給付費用			81,404			78,986	
11. 役員退職慰労金			-			354	
12. 役員退職慰労引当金 繰入			4,166			11,500	
13. 賞与引当金繰入			217,219			199,021	
14. 役員賞与引当金繰入			34,500			2,700	

区分	注記 番号	第30期 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)			第31期 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		
		内訳 (千円)	金額 (千円)	百分比 (%)	内訳 (千円)	金額 (千円)	百分比 (%)
15. 固定資産減価償却費			81,588			74,634	
16. 諸経費			98,412			108,901	
一般管理費計			2,661,833	45.2		2,610,390	29.3
営業利益または営業損失 ()			331,549	5.6		606,135	6.8
営業外収益							
1. 受取配当金			710			820	
2. 受取利息			6,138			1,564	
3. 時効成立分配金・償還 金			378			5,230	
4. 還付加算金			11,879			-	
5. その他			23			989	
営業外収益計			19,129	0.3		8,604	0.1
営業外費用							
1. 為替差損			6,061			1,741	
2. 事務過誤損失			4,839			3,529	
3. 時効成立後支払分配金 ・償還金			1,621			-	
4. その他			122			393	
営業外費用計			12,645	0.2		5,664	0.1
経常利益または経常損失 ()			325,065	5.5		609,075	6.8
特別利益							
1. 固定資産売却益	1		56			6	
2. 投資有価証券売却益			-			250	
特別利益計			56	0.0		256	0.0
特別損失							
1. 固定資産除却損	2		11,077			2,559	
2. 投資有価証券売却損			28			681	
3. 資産除去債務会計基準 の適用に伴う影響額			-			5,018	
特別損失計			11,105	0.2		8,258	0.1
税引前当期純利益ま たは税引前当期純損 失 ()			336,115	5.7		601,073	6.7
法人税、住民税及び 事業税			81,848			232,710	
法人税等調整額			42,043			19,507	
当期純利益または当 期純損失 ()			212,222	3.6		348,855	3.9

剰余金の配当	35,722	-
当期純利益または当期純損失（ ）	212,222	348,855
株主資本以外の項目の当事業年度変動額（純額）	24	40,021
当事業年度変動額合計	247,920	308,833
当事業年度末残高	6,895,050	7,203,883

重要な会計方針

	第30期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	第31期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。) 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>	<p>(1) 子会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>
2. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建物 8～18年 器具備品 3～15年</p> <p>(2) 無形固定資産 自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。</p>	<p>(1) 有形固定資産 同左</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p>
3. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 なお、貸倒実績等がないため、貸倒引当金の残高はありません。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込み額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p>

	<p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職給付会計に関する実務指針（中間報告）（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第13号）に定める簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により、当期末における必要額を計上しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>(5) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。</p>	<p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(5) 役員賞与引当金 同左</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>(1) 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p> <p>(2) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。</p>	<p>(1) 消費税等の会計処理 同左</p> <p>(2) 連結納税制度の適用 同左</p>

会計処理方法の変更

第30期 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	第31期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号平成20年 3月 31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号平成20年 3月31日）を適用しております。これによる損益の影響は軽微であります。</p>

表示方法の変更

第30期 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	第31期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>(損益計算書関係) 時効成立後支払分配金・償還金は、営業外費用の100分の10を超えたため、当事業年度より区分掲記しております。なお、前事業年度の営業外費用のその他に含まれる時効成立後支払分配金・償還金の金額は162千円です。</p>	

注記事項

(貸借対照表関係)

第30期 (平成22年 3月31日現在)	第31期 (平成23年 3月31日現在)

<p>1 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債に区分掲記されたもののほか、次のものがあります。</p> <p>流動資産</p> <p>未収入金 85,156千円</p> <p>投資その他の資産</p> <p>長期差入保証金 164,903千円</p> <p>2 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物 55,466千円</p> <p>器具備品 179,326千円</p>	<p>1 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債に区分掲記されたもののほか、次のものがあります。</p> <p>投資その他の資産</p> <p>長期差入保証金 158,547千円</p> <p>流動負債</p> <p>その他未払金 187,782千円</p> <p>2 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物 66,573千円</p> <p>器具備品 204,763千円</p>
---	--

(損益計算書関係)

第30期 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	第31期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>1 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <p>器具備品 56千円</p> <p>2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <p>器具備品 175千円</p> <p>ソフトウェア 6,983千円</p> <p>ソフトウェア仮勘定 3,918千円</p>	<p>1 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <p>器具備品 6千円</p> <p>2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <p>器具備品 877千円</p> <p>ソフトウェア 1,682千円</p>

(株主資本等変動計算書関係)

第30期事業年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

	前事業年度末 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式	1,082	-	-	1,082
合計	1,082	-	-	1,082

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成21年6月15日 定時株主総会	普通株式	35,722	33	平成21年3月31日	平成21年6月16日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
該当事項はありません。

第31期事業年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

	前事業年度末 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式	1,082	-	-	1,082
合計	1,082	-	-	1,082

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月14日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	174,282	161	平成23年3月31日	平成23年6月15日

(金融商品関係)

第30期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）および「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社では、資金運用については原則として預金等の資産を中心に投資する方針であり、有価証券の取得を行う場合には、投機的な取引は行いません。

また、資金調達については、主に金融機関からの借入による方針です。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

未収委託者報酬および未収運用受託報酬は顧客の信用リスクに晒されておりますが、主に信託銀行により分別管理が行われている信託財産から支弁されており、当該リスクの影響は軽微であります。

投資有価証券は、主に業務上の関係維持を目的として保有している非上場株式および子会社株式であり、定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。

長期差入保証金については、本社ビルの賃貸借契約に係る同居覚書に基づき、親会社へ差入れたものです。

未払金、未払費用は、ほとんどが1年以内の支払期日です。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、「リスク管理基本方針」にて各種リスクの基本的考え方を定めており、「財務リスク管理規程」によって、財務リスク（資金繰りリスク、信用リスク）の管理方法を定めています。財務リスクの状況は、月次で開催されるリスク管理委員会にてモニタリングが行われます。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照のこと。）。

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 預金	5,562,429	5,562,429	-
(2) 未収入金	86,135	86,135	-
(3) 未収委託者報酬	986,984	986,984	-
(4) 未収運用受託報酬	875,927	875,927	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	100	100	-
資産計	7,511,577	7,511,577	-

(1) 未払金			
未払収益分配金	(847)	(847)	-
未払償還金	(14,964)	(14,964)	-
未払手数料	(383,377)	(383,377)	-
その他未払金	(48,428)	(48,428)	-
(2) 未払費用	(773,621)	(773,621)	-
負債計	(1,221,239)	(1,221,239)	-

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法および有価証券に関する事項

資産

(1) 預金

時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収入金並びに未収委託者報酬および未収運用受託報酬

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、投資信託は公表されている基準価額によっております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項は以下のとおりであります。

その他有価証券の当会計年度中の売却額は71,450円であり、売却損の合計額は28,550円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価、貸借対照表計上額およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	種類(*)	取得原価	貸借対照表計上額	差額
取得価額が貸借対照表計上額を超えないもの	(1) その他の証券	100	100	-
	小計	100	100	-
合計		100	100	-

(*) 当会計年度中において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

負債

(1) 未払金および未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	62,200
子会社株式	319,502
長期差入保証金	164,953
合計	546,655

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 金銭債権および満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超

預金	5,562,429	-	-
未収入金	86,135	-	-
未収委託者報酬	986,984	-	-
未収運用受託報酬	875,927	-	-
投資有価証券			
その他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	-	100	-
合計	7,511,477	100	-

第31期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社では、資金運用については原則として預金等の資産を中心に投資する方針であり、有価証券の取得を行う場合には、投機的な取引は行いません。

また、資金調達については、主に金融機関からの借入による方針です。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

未収委託者報酬および未収運用受託報酬は顧客の信用リスクに晒されておりますが、主に信託銀行により分別管理が行われている信託財産から支弁されており、当該リスクの影響は軽微であります。

投資有価証券は、主に非上場株式、子会社株式および投資信託であります。非上場株式および子会社株式は業務上の関係維持を目的として保有しており、定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。投資信託は投資手法の開発等を目的に当社が設定する投資信託を取得しているものです。

長期差入保証金については、本社ビルの賃貸借契約に係る同居覚書に基づき、親会社へ差入れたものです。

未払金、未払費用は、ほとんどが1年以内の支払期日です。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、「リスク管理基本方針」にて各種リスクの基本的考え方を定めており、「財務リスク管理規程」によって、財務リスク（資金繰りリスク、信用リスク）の管理方法を定めています。財務リスクの状況は、月次で開催されるリスク管理委員会にてモニタリングが行われます。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照のこと。）。

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 預金	5,702,490	5,702,490	-
(2) 未収委託者報酬	822,206	822,206	-
(3) 未収運用受託報酬	593,956	593,956	-
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	658,021	658,021	-
資産計	7,776,674	7,776,674	-
(1) 未払金			
未払収益分配金	(789)	(789)	-
未払償還金	(9,304)	(9,304)	-
未払手数料	(283,852)	(283,852)	-
その他未払金	(231,075)	(231,075)	-
(2) 未払費用	(498,064)	(498,064)	-
負債計	(1,023,086)	(1,023,086)	-

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 預金

時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収委託者報酬および未収運用受託報酬

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、投資信託は公表されている基準価額によっております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項は以下のとおりであります。

その他有価証券の当会計年度中の売却額は14,384千円であり、売却益の合計額は250千円、売却損の合計額は681千円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価、貸借対照表計上額およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	種類(*)	取得原価	貸借対照表計上額	差額
取得原価が貸借対照表計上額を超えるもの	(1) その他の証券	100	100	0
	小計	100	100	0
取得原価が貸借対照表計上額を超えないもの	(1) その他の証券	725,400	657,921	67,478
	小計	725,400	657,921	67,478
合計		725,500	658,021	67,478

(*) 当会計年度中において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

負 債

(1) 未払金および未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	62,200
子会社株式	319,502
長期差入保証金	158,597
合計	540,299

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 金銭債権および満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超

預金	5,702,490	-	-
未収委託者報酬	822,206	-	-
未収運用受託報酬	593,956	-	-
投資有価証券			
その他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	-	100	-
合計	7,118,653	100	-

(有価証券関係)

第30期（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）

金融商品関係に記載しているため注記を省略しております。

第31期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

金融商品関係に記載しているため注記を省略しております。

(退職給付関係)

第30期 (平成22年3月31日現在)	第31期 (平成23年3月31日現在)
<p>1. 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。なお、従業員の一部について平成16年7月より確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を開始しました。</p> <p>2. 退職給付債務及びその内訳 (1) 退職給付債務 315,385千円 (2) 退職給付引当金 315,385千円</p> <p>(注) 当社は、対象人員が300名未満と少なく年齢や勤続期間にも偏りがあり、数理計算結果に一定の高い水準の信頼性を得ることが困難であると判断して、簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により退職給付債務を算定しております。</p> <p>3. 退職給付費用の内訳 勤務費用 69,901千円 確定拠出年金への掛金支払額 <u>11,502千円</u> 退職給付費用 81,404千円</p> <p>4. 退職給付債務の計算基礎 当社は簡便法を採用しておりますので、基礎率等について記載しておりません。</p>	<p>1. 採用している退職給付制度の概要 同左</p> <p>2. 退職給付債務及びその内訳 (1) 退職給付債務 367,274千円 (2) 退職給付引当金 367,274千円</p> <p>(注) 同左</p> <p>3. 退職給付費用の内訳 勤務費用 66,556千円 確定拠出年金への掛金支払額 <u>12,430千円</u> 退職給付費用 78,986千円</p> <p>4. 退職給付債務の計算基礎 同左</p>

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第30期（平成22年3月31日現在）	第31期（平成23年3月31日現在）
繰延税金資産	(単位：千円)	(単位：千円)
(流動)		
賞与引当金	88,386	80,981
未払事業税	2,685	13,006
未払社会保険料	11,333	10,769
貯蔵品	2,071	1,919
繰越欠損金	58,703	10,322

その他	8,848	11,819
小計	172,028	128,819
（固定）		
退職給付引当金	130,458	155,242
子会社株式評価損	1,304	1,304
連結納税加入に伴う有価証券 時価評価益	111,796	111,796
減価償却超過額否認	8,540	7,457
その他有価証券評価差額金	-	27,457
その他	-	2,586
小計	252,099	305,843
評価性引当額	113,100	115,686
繰延税金資産計	311,027	318,976

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

第30期（平成22年3月31日現在）		第31期（平成23年3月31日現在）
法定実効税率	40.69 %	法定実効税率と税効果会計適用後の法人 税等の負担率との間の差異が法定実効税 率の100分の5以下であるため注記を省略 しております。
交際費等永久に損金に算入 されない項目	3.15 %	
その他	0.68 %	
税効果会計適用後の法人税率 の負担率	36.86 %	

（資産除去債務関係）

第30期（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）

該当事項はありません。

第31期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

記載すべき重要な事項はありません。

（セグメント情報等）

第30期（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）

〔セグメント情報〕

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

第31期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

〔セグメント情報〕

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

〔関連情報〕

1. 製品およびサービスに関する情報

当社の製品およびサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品およびサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

2. 地域に関する情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益

の記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客に関する情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

(追加情報)

当事業年度より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(関連当事者との取引)

第30期(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又 は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事 者との関 係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	株T&Dホールディングス	東京都港区	207,111	持株会社	(被所有) 直接 100	経営管理 役員の 兼任	賃借契約に係る敷金の差入(*1)	-	長期差入保証金	164,903

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(*1)長期差入保証金については、床面積を基準に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社T & Dホールディングス(東京証券取引所及び大阪証券取引所に上場)

第31期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又 は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事 者との関 係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	株T&Dホールディングス	東京都港区	207,111	持株会社	(被所有) 直接 100	経営管理 役員の 兼任	賃借契約に係る敷金の差入(*1)	-	長期差入保証金	158,547

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(*1)長期差入保証金については、床面積を基準に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社 T & Dホールディングス（東京証券取引所及び大阪証券取引所に上場）

(1株当たり情報)

第30期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		第31期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	6,369.56円	1株当たり純資産額	6,654.85円
1株当たり当期純損失金額	196.04円	1株当たり当期純利益金額	322.26円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純損失金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎		1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎	
当期純損失（千円）	212,222	当期純利益（千円）	348,855
普通株主に帰属しない金額 （千円）	-	普通株主に帰属しない金額 （千円）	-
普通株式に係る当期純損失 （千円）	212,222	普通株式に係る当期純利益 （千円）	348,855
期中平均株式数（千株）	1,082	期中平均株式数（千株）	1,082

(重要な後発事象)

第30期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	第31期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
該当事項はありません。	同左

[次へ](#)

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

区分	注記 番号	第32期中間会計期間末 (平成23年9月30日)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)
(資産の部)			
流動資産			
1. 預金			5,066,576
2. 前払費用			88,442
3. 未収入金			54,157
4. 未収委託者報酬			820,018
5. 未収運用受託報酬			517,536
6. 繰延税金資産			79,369
7. その他			57
流動資産計			6,626,158
固定資産			
1. 有形固定資産	1		107,015
(1) 建物		63,116	
(2) 器具備品		43,001	
(3) その他		897	
2. 無形固定資産			91,238
(1) 電話加入権		2,862	
(2) ソフトウェア		85,731	
(3) ソフトウェア仮勘定		2,643	
3. 投資その他の資産			1,417,008
(1) 投資有価証券		756,518	
(2) 関係会社株式		318,844	
(3) 長期差入保証金		144,453	
(4) 繰延税金資産		196,823	
(5) その他		369	
固定資産計			1,615,262
資産合計			8,241,420

区分	注記 番号	第32期中間会計期間末 (平成23年9月30日)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)
(負債の部)			
流動負債			
1. 預り金			19,563
2. 未払金			334,883
(1) 未払収益分配金		789	
(2) 未払償還金		5,658	
(3) 未払手数料		287,225	
(4) その他未払金		41,209	
3. 未払費用			389,003
4. 未払法人税等			5,939

5. 未払消費税等	2		6,715
6. 賞与引当金			88,273
7. 役員賞与引当金			1,000
流動負債計			845,379
固定負債			
1. 退職給付引当金			368,649
2. 役員退職慰労引当金			7,725
固定負債計			376,374
負債合計			1,221,754
(純資産の部)			
株主資本			
1. 資本金			1,100,000
2. 資本剰余金			277,667
(1) 資本準備金		277,667	
3. 利益剰余金			5,695,491
(1) 利益準備金		175,000	
(2) その他利益剰余金			
別途積立金		3,137,790	
繰越利益剰余金		2,382,700	
株主資本合計			7,073,159
評価・換算差額等			
1. その他有価証券評価差額金			53,493
評価・換算差額等合計			53,493
純資産合計			7,019,665
負債純資産合計			8,241,420

(2) 中間損益計算書

区分	注記 番号	第32期中間会計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)
営業収益			
1. 委託者報酬			2,142,517
2. 運用受託報酬			1,025,279
営業収益計			3,167,796
営業費用			
1. 支払手数料			888,420
2. 広告宣伝費			38,395
3. 調査費			864,626
(1) 調査費		11,767	
(2) 委託調査費		639,448	
(3) 情報機器関連費		212,406	
(4) 図書費		1,003	
4. 委託計算費			81,111
5. 営業雑経費			61,966
(1) 通信費		5,471	

(2) 印刷費		35,686	
(3) 協会費		6,099	
(4) 諸会費		1,616	
(5) 紹介手数料		13,093	
営業費用計			1,934,520
一般管理費			
1. 給料			765,292
(1) 役員報酬		32,706	
(2) 給料・手当		716,054	
(3) 賞与		16,531	
2. 法定福利費			93,309
3. 退職金			8,767
4. 福利厚生費			2,433
5. 交際費			1,115
6. 旅費交通費			14,471
7. 事務委託費			41,608
8. 租税公課			8,268
9. 不動産賃借料			83,290
10. 退職給付費用			38,727
11. 役員退職慰労引当金繰入			2,475
12. 賞与引当金繰入			88,273
13. 役員賞与引当金繰入			1,000
14. 固定資産減価償却費	1		30,859
15. 諸経費			45,548
一般管理費計			1,225,442
営業利益			7,834

第32期中間会計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)			
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)
営業外収益			
1. 受取配当金			738
2. 受取利息			468
3. 時効成立償還金			3,608
4. その他			6
営業外収益計			4,821
営業外費用			
1. 為替差損			550
2. その他			2,272
営業外費用計			2,823
経常利益			9,832
特別利益			
1. 投資有価証券売却益			9,482
特別利益計			9,482
特別損失			
1. 固定資産除却損	2		2,664

2. 投資有価証券売却損			11,265
3. 子会社株式評価損 特別損失計			657
			14,587
税引前中間純利益			4,726
法人税、住民税及び事業税			50,835
法人税等調整額			52,025
中間純利益			3,535

(3) 中間株主資本等変動計算書

第32期中間会計期間(自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 9月30日)

株主資本		金額 (千円)
資本金	当事業年度期首残高	1,100,000
	当中間会計期間変動額	-
	当中間会計期間末残高	1,100,000
資本剰余金		
資本準備金	当事業年度期首残高	277,667
	当中間会計期間変動額	-
	当中間会計期間末残高	277,667
資本剰余金合計	当事業年度期首残高	277,667
	当中間会計期間変動額	-
	当中間会計期間末残高	277,667
利益剰余金		
利益準備金	当事業年度期首残高	175,000
	当中間会計期間変動額	-
	当中間会計期間末残高	175,000
その他利益剰余金		
別途積立金	当事業年度期首残高	3,137,790
	当中間会計期間変動額	-
	当中間会計期間末残高	3,137,790
繰越利益剰余金	当事業年度期首残高	2,553,447
	当中間会計期間変動額	
	剰余金の配当	174,282
	中間純利益	3,535
	当中間会計期間変動額合計	170,746
当中間会計期間末残高	2,382,700	
利益剰余金合計	当事業年度期首残高	5,866,237
	当中間会計期間変動額	170,746
	当中間会計期間末残高	5,695,491
株主資本合計	当事業年度期首残高	7,243,905
	当中間会計期間変動額	170,746
	当中間会計期間末残高	7,073,159
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	当事業年度期首残高	40,021
	当中間会計期間変動額(純額)	13,471

評価・換算差額等合計	当中間会計期間末残高	53,493
	当事業年度期首残高	40,021
	当中間会計期間変動額	13,471
	当中間会計期間末残高	53,493
純資産合計	当事業年度期首残高	7,203,883
	当中間会計期間変動額	184,218
	当中間会計期間末残高	7,019,665

重要な会計方針

	第32期中間会計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)				
1. 資産の評価基準及び評価方法	<p>(1) 有価証券 子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。 その他有価証券 時価のあるもの 中間決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。) 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>				
2. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>建物</td> <td>8～18年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>3～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産 自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。</p>	建物	8～18年	器具備品	3～15年
建物	8～18年				
器具備品	3～15年				
3. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 なお、貸倒実績等がないため、貸倒引当金の残高はありません。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間にかかる額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職給付会計に関する実務指針(中間報告)(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第13号)に定める簡便法(期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法)により、当中間会計期末における必要額を計上しております。</p> <p>(4) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。</p>				
4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>(1) 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p> <p>(2) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。</p>				

会計方針の変更

該当事項はありません。

（追加情報）

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当中間会計期間の期首以降に行われる会計上の変更及び誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

第32期中間会計期間末 （平成23年9月30日現在）	
1	有形固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。
	建物 71,334千円
	器具備品 216,586千円
2	消費税等の取扱い
	仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ流動負債の「未払消費税等」として表示しております。

（中間損益計算書関係）

第32期中間会計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）	
1	固定資産の減価償却実施額は次の通りであります。
	有形固定資産 16,583千円
	無形固定資産 14,275千円
2	固定資産除却損の内訳は次の通りであります。
	ソフトウェア 2,664千円

（中間株主資本等変動計算書関係）

第32期中間会計期間（自平成23年4月1日至平成23年9月30日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数（千株）	当中間会計期間増加 株式数（千株）	当中間会計期間減少 株式数（千株）	当中間会計期間末 株式数（千株）
普通株式	1,082	-	-	1,082
合計	1,082	-	-	1,082

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月14日 定時株主総会	普通株式	174,282	161	平成23年3月31日	平成23年6月15日

- (2) 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間後となるもの
該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

平成23年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）参照のこと。）。

（単位：千円）

	中間貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 預金	5,066,576	5,066,576	-
(2) 未収委託者報酬	820,018	820,018	-
(3) 未収運用受託報酬	517,536	517,536	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	694,318	694,318	-
資産計	7,098,449	7,098,449	-
(1) 未払金 未払収益分配金	(789)	(789)	-
未払償還金	(5,658)	(5,658)	-
未払手数料	(287,225)	(287,225)	-
その他未払金	(41,209)	(41,209)	-
(2) 未払費用	(389,003)	(389,003)	-
負債計	(723,887)	(723,887)	-

(*) 負債に計上されているものについては、() で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法および有価証券に関する事項

資 産

(1) 預金

時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収委託者報酬および未収運用受託報酬

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、投資信託は公表されている基準価額によっております。

その他有価証券において、種類ごとの取得原価、中間貸借対照表計上額およびこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	種類	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) その他の証券	52,364	49,398	2,965
	小計	52,364	49,398	2,965
中間貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) その他の証券	641,954	735,112	93,158
	小計	641,954	735,112	93,158
合計		694,318	784,511	90,192

負 債

(1) 未払金および未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	中間貸借対照表計上額
非上場株式	62,200
子会社株式	318,844
長期差入保証金	144,453
合計	525,497

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

（有価証券関係）

第32期中間会計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

（金融商品関係）に記載しているため注記を省略しております。

（資産除去債務関係）

記載すべき重要な事項はありません。

（セグメント情報等）

第32期中間会計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

セグメント情報

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

1. 製品およびサービスに関する情報

当社の製品およびサービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品およびサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

2. 地域に関する情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客に関する情報

外部顧客への営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

（1株当たり情報）

第32期中間会計期間 （自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）	
1株当たり純資産額	6,484円67銭
1株当たり中間純利益金額	3円26銭

なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎

中間純利益(千円)	3,535
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る中間純利益(千円)	3,535
期中平均株式数(千株)	1,082

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、ファンドの運用指図を行うに当たり、利害関係人との取引について、次の行為が禁止されています。

1. 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
2. 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
3. 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下4、5において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
4. 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
5. 上記3、4に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

定款の変更等

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の特別決議が必要です。

出資の状況

委託会社は、運用業務の拡張を目的として下記の会社に出資を行っています。

T&D Asset Management (U.S.A.) Inc.（出資比率 100%）

（ティ・アンド・ディ アセットマネジメント（ユー・エス・エー）インク）

T&D Asset Management Cayman Inc.（出資比率 100%）

（ティ・アンド・ディ アセットマネジメント ケイマン インク）

訴訟事件その他の重要事項

委託会社および当ファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

三井住友信託銀行株式会社

- ・ 資本金の額 342,037百万円(平成24年4月1日現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

[信託事務の一部委託先]

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

- ・ 資本金の額 51,000百万円(平成23年9月末日現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

大和証券株式会社

- ・ 資本金の額 100,000百万円(平成24年4月1日現在)
- ・ 事業の内容 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

2【関係業務の概要】

「受託会社」は主に以下の業務を行います。

- a. 信託財産の保管・管理・計算
- b. 委託会社の指図に基づく信託財産の処分等

「販売会社」は主に以下の業務を行います。

- a. 受益権の募集・販売の取扱い
- b. 受益権の換金（解約）申込の取扱い
- c. 換金代金、収益分配金および償還金の支払の取扱い
- d. 目論見書、運用報告書の交付等

3【資本関係】

(持株比率5.0%以上を記載します。)

平成24年3月末日現在、該当事項はありません。

第3【参考情報】

当特定期間において提出した金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる書類は以下の通りです。

平成24年2月22日

臨時報告書

独立監査人の監査報告書

平成24年5月15日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているT & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コースの平成23年11月22日から平成24年3月15日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに付属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コースの平成24年3月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成24年5月15日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているT & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドルブル・コースの平成23年11月22日から平成24年3月15日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに付属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドルブル・コースの平成24年3月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成24年5月15日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているT & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドルペア・コースの平成23年11月22日から平成24年3月15日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに付属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）米ドルペア・コースの平成24年3月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成24年5月15日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているT & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロブル・コースの平成23年11月22日から平成24年3月15日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに付属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロブル・コースの平成24年3月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成24年5月15日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているT & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロベア・コースの平成23年11月22日から平成24年3月15日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに付属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）ユーロベア・コースの平成24年3月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成24年5月15日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているT & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）リアルブル・コースの平成23年11月22日から平成24年3月15日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに付属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）リアルブル・コースの平成24年3月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成24年5月15日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているT & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）豪ドルブル・コースの平成23年11月22日から平成24年3月15日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに付属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & D 通貨トレード 新興国社債ファンド（毎月分配型）豪ドルブル・コースの平成24年3月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成23年6月3日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理の状況」に掲げられているT & Dアセットマネジメント株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第31期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & Dアセットマネジメント株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[委託会社の監査報告書\(中間\)へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成23年12月2日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているT & Dアセットマネジメント株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第32期事業年度の中間会計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行なった。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、T & Dアセットマネジメント株式会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

[委託会社の監査報告書\(当期\)へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成22年6月4日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	英 公一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理の状況」に掲げられているT & Dアセットマネジメント株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第30期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & Dアセットマネジメント株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。